

(案)

エチプロール 農薬使用者安全評価書

2026年9月17日

農業資材審議会農薬分科会

農薬使用者安全評価部会

目 次

＜経緯＞	1
＜農薬使用者安全評価部会出席者名簿＞	1
I. 評価対象農薬の概要.....	2
1. 有効成分の概要	2
2. 有効成分の物理的・化学的性状.....	3
3. 申請に係る情報	5
4. 作用機作	5
5. 適用病虫害雑草等の範囲及び使用方法	5
II. 安全性に係る試験の概要	6
1. 経口吸収率.....	6
2. 毒性試験の結果概要	8
3. 公表文献における研究結果（資料 67）	10
3.1 ヒト以外における知見	12
III. 農薬使用者暴露許容量（AOEL）	14
IV. 急性農薬使用者暴露許容量（AAOEL）	19
V. 暴露量の推計.....	22
1. 経皮吸収試験.....	22
2. 圃場における農薬使用者暴露	35
3. 暴露量の推計.....	35
VI. リスク評価結果.....	36
評価資料.....	37

<経緯>

令和6年（2024年）5月23日	農業資材審議会への諮問（再評価）
令和7年（2025年）2月13日	農業資材審議会への諮問（登録）
令和8年（2026年）9月17日	農業資材審議会農薬分科会農薬使用者安全 評価部会（第27回）

<農薬使用者安全評価部会出席者名簿>（第27回）

（委員）	（臨時委員）	（専門委員）	（専門参考人）
櫻井 裕之	天野 昭子	相崎 健一	小坂 忠司
		石井 雄二	
		藤堂 浩明	
		成田 伊都美	
		元村 淳子	

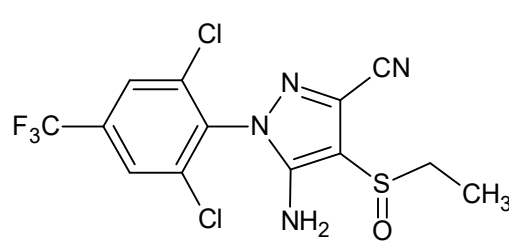
エチプロール

I. 評価対象農薬の概要

1. 有効成分の概要

- 1.1 申請者 バイエルクロップサイエンス株式会社
OAT アグリオ株式会社
- 1.2 登録名 エチプロール
5-アミノ-1-(2,6-ジクロロ- α,α,α -トリフルオロ-*p*-トリル)-4-エチルスルフィニルピラゾール-3-カルボニトリル
- 1.3 一般名 ethiprole (ISO)
- 1.4 化学名
IUPAC 名 : 5-amino-1-(2,6-dichloro- α,α,α -trifluoro-*p*-tolyl)-4-ethylsulfinylpyrazole-3-carbonitrile

CAS 名 : 5-amino-1-[2,6-dichloro-4-(trifluoromethyl)phenyl]-4-(ethylsulfinyl)-1*H*pyrazole-3-carbonitrile
(CAS No. 181587-01-9)
- 1.5 分子式、構造式、分子量
分子式 $C_{13}H_9Cl_2F_3N_4OS$

構造式


分子量 397.21

2. 有効成分の物理的・化学的性状

(1) バイエルクロップサイエンス株式会社

試験項目			純度 (%)	試験方法	試験結果	
蒸気圧			99.6	OECD 104	9.1 × 10 ⁻⁸ Pa (25 °C)	
融点			99.6	OECD 102	測定不能 (165 °C以上で熱分解するため)	
沸点			99.6	OECD 103	測定不能 (融点の試験において約 165 °Cで分解するため)	
熱安定性			99.6	OECD 103	165 °C以上で分解	
溶解度	水		99.6	OECD 105	9.2 mg/L (20 °C、蒸留水)	
	有機溶媒	ヘプタン	97.2	OECD 105	4 mg/L (20 °C)	
		トルエン			1.0 g/L (20 °C)	
		ジクロロメタン			19.9 g/L (20 °C)	
		アセトン			90.7 g/L (20 °C)	
		メタノール			47.2 g/L (20 °C)	
		1-オクタノール			2.4 g/L (20 °C)	
		酢酸エチル			24.0 g/L (20 °C)	
		アセトニトリル			24.5 g/L (20 °C)	
	解離定数 (pK _a)			99.6	OECD 112	解離しない
1-オクタノール／水分配係数 (log P _{ow})			99.6	OECD 117	2.9 (20 °C)	
加水分解性			97.9	EPA 161-1	安定(25°C、31 日間、pH 4、5 及び 7) 半減期 121 日(25±1 °C、pH 9)	
水中光分解性			97.9	EPA 161-2	半減期 6.46 時間 (pH 5、25 °C、730 W/m ² 、290～800 nm)	
紫外可視吸収 (UV/VIS) スペクトル			99.7	極大吸収波長 (nm)	吸光度	モル吸光係数 (L mol ⁻¹ cm ⁻¹)
				中性		
				203	1.11	42800
				279	0.147	5680
				酸性		
				203	1.11	42700
				280	0.163	6290
				アルカリ性		
				222	0.499	19300
				279	0.0846	3270

(2) OAT アグリオ株式会社

試験項目			純度 (%)	試験方法	試験結果	
蒸気圧			99.1	OECD 104	< 1.67 × 10 ⁻⁶ Pa (25 ℃)	
融点			99.1	OECD 102	測定不能 (168 ℃以上で熱分解するため)	
熱安定性			99.1	OECD 113	約175 ℃で分解	
溶解度	水		99.1	OECD 105	9.24 mg/L (20 ℃)	
	有機溶媒	ヘキサン	99.1	OECD 105	50.2 mg/L (20 ℃)	
		トルエン			1.05 g/L (20 ℃)	
		ジクロロメタン			20.0 g/L (20 ℃)	
		アセトン			102 g/L (20 ℃)	
		メタノール			51.6 g/L (20 ℃)	
		酢酸エチル			28.2 g/L (20 ℃)	
解離定数 (pK _a)			99.1	OECD 112	解離しない	
1-オクタノール／水分配係数 (log P _{ow})			99.1	OECD 117	2.6 (25 ℃)	
加水分解性			—	安定(25℃、31 日間、pH 4、5 及び 7) 半減期 121 日(25±1 ℃、pH 9)		
水中光分解性			—	半減期6.46時間 (pH 5、25℃、730 W/m ² 、290～800 nm)		
紫外可視吸収 (UV/VIS) スペクトル			99.1	極大吸収波長 (nm)	吸光度	モル吸光係数 (L mol ⁻¹ cm ⁻¹)
				酸性		
				279	0.138	6090
				285	0.133	5880
				中性 (pH 7.0)		
				280	0.146	6460
				285	0.141	6220
				アルカリ性		
				212	0.659	29100
				281	0.109	4810

3. 申請に係る情報

令和 5 年（2023 年）3 月 17 日から 3 月 29 日に、再評価を受けるべき者から農薬取締法（昭和 23 年法律第 82 号）第 8 条第 3 項に基づく試験成績等を受理した。

エチプロールの新規農薬原体を含む製剤の登録申請を令和 5 年（2023 年）3 月 1 日に受けた。

エチプロールは、令和 8 年（2026 年）9 月現在、中南米、アジア等の国々で登録されている。

4. 作用機作

昆虫において抑制性神経伝達物質とされる GABA (γ -amino butyric acid) による神経伝達を阻害する。通常 GABA 受容体に GABA が結合すると塩素イオンチャンネルが開くことで神経伝達が行われるが、エチプロール存在下にはこれら作用が阻害される。

(IRAC 分類：2B*)

※参照：<https://irac-online.org>

5. 適用病虫害雑草等の範囲及び使用方法

評価対象となるエチプロールを含有する農薬 27 製剤について、適用病虫害雑草等の範囲及び使用方法を別添 1 に示す。

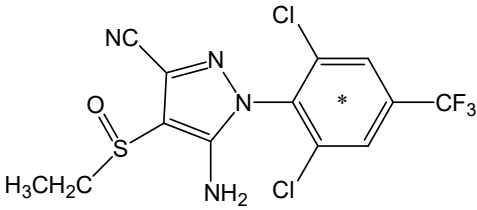
II. 安全性に係る試験の概要

エチプロールは、令和 8 年（2026 年）7 月 29 日、内閣府食品安全委員会において、食品健康影響評価（資料 1）がなされている。食品安全委員会では、評価に用いた試験成績において、過去のテストガイドラインに基づき実施されている試験も確認されたが、エチプロールの代謝・毒性プロファイルを適切に把握できることから、評価は可能と判断されている。

1. 経口吸収率

エチプロールのフェニル環の炭素を均一に ^{14}C で標識したもの（以下「 ^{14}C -エチプロール」という。）（表 1）を用いた動物代謝試験による動物体内への吸収率（経口吸収率）の概要をまとめた。

表 1 標識化合物

略称	^{14}C -エチプロール
構造式	
標識位置	フェニル環の炭素を均一に標識

① 尿及び糞中排泄（資料 2、GLP）

SD ラット（一群雌雄各 5 匹）に ^{14}C -エチプロールを 5 mg/kg 体重（以下「低用量」という。）若しくは 1,000 mg/kg 体重（以下「高用量」という。）で単回経口投与して、尿及び糞中排泄試験が実施された。

投与後 168 時間の尿及び糞中排泄率並びに組織残留率は表 2 に示されている。

性別及び投与量にかかわらず、投与放射能は、主に糞中に排泄され、呼気からはほとんど排泄されないと考えられた。

低用量群の投与後 96 時間の糞中放射能（54.5%TAR～66.7%TAR）が、胆汁中排泄試験[1.②]における低用量群の胆汁中放射能（51.6%TAR～67.2%TAR）とほぼ等しいことから、この糞中の放射能の多くは、一度体内に吸収され肝臓で代謝を受けた後、胆汁を介して糞中に排泄されたものと考えられた。さらに、胆汁中排泄試験における尿中排泄の低下（雄で 23.3%TAR から 11.0%TAR に減少、雌で 36.2%TAR から 30.4%TAR に減少）は、腸肝循環により、再吸収された代謝物が主に尿を介して排泄されていることに起因す

と考えられた。

表 2 投与後 168 時間の尿及び糞中排泄率並びに組織残留率 (%TAR)

投与量	5 mg/kg 体重 単回		1,000 mg/kg 体重 単回	
	雄	雌	雄	雌
尿	23.5	36.4	2.96	5.13
糞	67.3	54.9	88.4	87.5
ケージ洗浄液	1.53	2.67	0.37	0.37
カーカス	0.55	0.71	0.01	0.02
組織 ^a	0.12	0.13	0.02	0.02
経口吸収率 ^b	25.6	39.8	3.34	5.52
総回収率	93.0	94.9	91.8	93.1

表の値は 5 匹の平均値

a : 全血及び組織・臓器（消化管は内容物を含む）中放射能の合計

b : 尿、ケージ洗浄液及びカーカスの合計

② 胆汁中排泄（資料 2、GLP）

胆管カニニューレを挿入した SD ラット（一群雌雄各 5 匹）に ¹⁴C-エチプロールを低用量又は高用量で単回経口投与し、胆汁中排泄試験が実施された。

投与後 96 時間の胆汁、尿及び糞中排泄率並びに組織残留率は表 3 に示されている。

投与放射能は、低用量群では主に胆汁中、高用量群では主に糞中に排泄された。

本試験より得られた胆汁、尿及びケージ洗浄液の合計より、単回投与後 96 時間の吸収率は、低用量群で 82.0～85.1%、高用量群で 8.54～10.6%であると算出された。

表 3 投与後 96 時間の胆汁、尿及び糞中排泄率並びに組織残留率 (%TAR)

投与群	5 mg/kg 体重		1,000 mg/kg 体重	
	雄	雌	雄	雌
胆汁	67.2	51.6	8.92	6.03
尿	11.0	30.4	1.14	1.53
糞	10.5	10.5	86.0	79.3
ケージ洗浄液	3.79	3.10	0.49	0.98
カーカス ^a	1.49	3.49	0.36	5.78
経口吸収率 ^b	82.0	85.1	10.6	8.54
総回収率	93.9	99.1	96.9	93.6

表の値は 5 匹の平均値

a : 消化管内容物を含む

b : 胆汁、尿及びケージ洗浄液の合計

2. 毒性試験の結果概要

各種毒性試験（資料 3～66）の結果は、資料 1（食品安全委員会農薬評価書）の II.安全性に係る試験の概要を参照した。

エチプロールの急性経口毒性試験の LD₅₀ はラットで >2,000 mg/kg 体重、急性経皮毒性の LD₅₀ はラットで >2,000 mg/kg 体重、急性吸入毒性の LC₅₀ は 1.22 ～2.51 mg/L、眼刺激性、皮膚刺激性及び皮膚感作性は認められなかった。

エチプロール投与による影響は、主に肝臓（重量増加、肝細胞肥大、肝細胞壊死等）及び甲状腺（重量増加、ろ胞細胞肥大等）に認められた。免疫毒性、繁殖能に対する影響、催奇形性及び生体において問題となる遺伝毒性は認められなかった。

ラットを用いた 2 年間反復経口投与毒性/発がん性併合試験において、雌雄で甲状腺ろ胞細胞腺腫の発生頻度の増加傾向、雄で皮下脂肪腫の発生頻度の有意な増加、雌で卵巣のセルトリ細胞様腺腫の発生頻度の有意な増加が認められ、マウスを用いた 18 か月間発がん性試験において、雌雄で肝細胞腺腫の発生頻度の有意な増加が、雄で肝細胞癌の発生頻度の有意な増加が認められたが、腫瘍の発生機序は遺伝毒性メカニズムとは考え難く、評価に当たり閾値を設定することは可能であると考えられた。

ラットを用いた急性神経毒性試験において、着地開脚幅減少、自発運動量減少等が認められたが、神経病理組織学的検査において、検体投与による毒性影響は認められなかった。90 日間反復経口投与神経毒性試験においては、神経毒性は認められなかった。

食品安全委員会は、各試験で得られた無毒性量のうち最小値は、ウサギを用いた発生毒性試験①及び②の 0.5 mg/kg 体重/日であったことから、これを根拠として、安全係数 100 で除した 0.005 mg/kg 体重/日を許容一日摂取量（ADI）と設定した。

また、エチプロールの単回経口投与等により生ずる可能性のある毒性影響に対する無毒性量又は最小毒性量のうち最小値は、ウサギを用いた発生毒性試験①及び②の無毒性量 2.0 mg/kg 体重/日であったが、妊娠ウサギを用いた単回経口投与試験において無毒性量 2.2 mg/kg 体重が得られている。ウサギを用いた発生毒性試験①及び②において認められた影響は母動物における体重減少/体重増加抑制及び摂餌量減少であったが、非妊娠ウサギを用いた単回経口投与試験の結果から、妊娠ウサギにおいて、より低い用量で影響が認められる可能性が否定できないと考えられたことから、妊婦又は妊娠している可能性のある女性を対象として急性参照用量（ARfD）を設定することが妥当と考えられた。したがって、妊娠ウサギを用いた単回経口投与試験の無毒性量 2.2 mg/kg 体重を根拠として、安全係数 100 で除した 0.022 mg/kg 体重を、妊婦又は妊娠している可

能性のある女性に対する ARfD と設定した。また、一般の集団に対しては、非妊娠ウサギを用いた単回経口投与試験の無毒性量 3.0 mg/kg 体重を根拠として、安全係数 100 で除した 0.03 mg/kg 体重を ARfD と設定した。

3. 公表文献における研究結果（資料 67）

表 4 に示すデータベース [STN プラットフォーム] を用いて、2007 年 7 月 1 日～2022 年 6 月 30 日を検索対象期間として、有効成分名及びエチプロールを含む製剤名をキーワードとして公表文献を検索し、評価対象となる影響、評価対象の生物種等についてガイドライン¹で定めるキーワードで絞り込みが行われた。

STN プラットフォームを用いた場合、全文に基づく適合性評価の対象となったヒトに対する毒性の分野（動物を用いた研究、疫学研究等）に該当するとして収集された公表文献 214 報のうち、評価の目的と適合するものとして 3 報の文献が選択された。

また、海外評価機関が作成した評価書中に引用されているヒトに対する毒性の分野に該当する公表文献 201 報のうち、評価の目的と適合するものとして 2 報が選択された。評価目的との適合性等の観点から、さらに本部会で検討²した結果、疫学以外については公表文献 2 報（II.3.1）を評価に使用する公表文献と判断した。疫学については対象となる文献はなかった。

¹ 公表文献の収集、選択等のためのガイドライン（令和 3 年 9 月 22 日 農業資材審議会農薬分科会決定、令和 5 年 7 月 27 日一部改正）

² 「農業資材審議会農薬分科会農薬使用者安全評価部会での公表文献の取扱いについて（令和 4 年 9 月 2 日 農業資材審議会農薬分科会農薬使用者安全評価部会決定）」に基づく検討。

表 4 エチプロールに関する公表文献の検索結果

データベース名	STNプラットフォーム
検索対象期間	2007/7/1～2022/6/30
検索結果	
対象とする農薬名で検索抽出した総論文数	214
全文に基づく適合性評価の対象となったヒトに対する毒性の分野の論文数	6
全文に基づく適合性評価の結果、評価の目的と適合するとした文献数	3
評価に用いた文献数	3
調査対象とした海外評価書	JMPR等評価書 ^a
評価書に引用されたヒトに対する毒性の分野の文献数	2
評価に用いた文献数	2

^a : 調査対象とした評価書は下記

- ・ JMPR (2018): Evaluations of Pesticide residue in food (Part II-Toxicological), 2018
- ・ EPA (2019): ethiprole: Human Health Risk Assessment for a Proposed Tolerance without US Registration in/on Imported Coffee, Green Bean, 2019

3.1 ヒト以外における知見

① 繁殖及び児動物への神経行動学的影響の検討（マウス）①

ICR マウス（一群雌雄各 10 匹）にエチプロールを混餌投与（分析用標準品、純度 99.5%：0%、0.0003%、0.0009%及び 0.0027%：平均検体摂取量は表 5 参照）して試験が実施された。P 世代の 5 週齢から投与を開始し、9 週齢で交配させ、妊娠・哺育期間を通じて投与された。F₁ 世代については 11 週齢まで投与され、繁殖及び児動物への神経行動学的影響について検討された。

表 5 繁殖及び児動物への神経行動学的影響の検討（マウス）①の平均検体摂取量

投与群			0.0003%	0.0009%	0.0027%
平均検体摂取量 (mg/kg 体重/日)	P 世代	雄	0.48	1.47	4.56
		雌	0.58	1.75	4.96
	F ₁ 世代	雄	0.52	1.64	5.00
		雌	0.59	1.91	5.62

児動物について、同腹児数、同腹児重量及び性比に検体投与の影響は認められなかった。

神経行動学的検査³の結果、P 世代の探索行動では、雄（8 週齢）で移動時間に増加傾向がみられた。F₁ 世代では、雄（7 日齢）で正向反射の短縮、雌（14 日齢）では嗅覚性方向反応の増加が認められ、探索行動（3 週齢）では総移動距離（雄）や平均移動時間（雌雄）などの減少、水平移動回数（雌）及び立ち上がり時間（雄）の増加が認められた。自発運動では雌（9 及び 10 週齢）で水平移動回数などに減少が認められた。（資料 68、文献通し No.4）

② 繁殖及び児動物への神経行動学的影響の検討（マウス）②

ICR マウス（一群雌 10 匹）にエチプロールを妊娠期間（交配後から出産まで：妊娠 1～5 日から妊娠 19 日まで）から哺育期間（出産から離乳まで：哺育 0 日から哺育 24～28 日まで）まで混餌投与（分析用標準品、純度 99.4%：0%、0.0002%、0.001%及び 0.005%：平均検体摂取量は表 6 参照）し、繁殖及び児動物への神経行動学的影響について検討された。

³ 検査項目は、正向反射、斜面試験、崖回避試験、強制水泳、嗅覚性方向反応、探索行動、水迷路試験及び自発運動

表 6 繁殖及び児動物への神経行動学的影響の検討（マウス）②の平均検体摂取量

投与群		0.0002%	0.001%	0.005%
平均検体摂取量 (mg/kg 体重/日)	妊娠期間	0.28	1.74	7.49
	哺育期間 I	0.83	4.12	20.7
	哺育期間 II	1.79	8.72	42.0

哺育期間 I：出産～産後 2 週

哺育期間 II：産後 3 週～離乳（児動物による検体摂取も含む）

児動物について、同腹児数、同腹児重量及び性比に検体投与の影響は認められなかった。

神経行動学的検査³の結果、F₁世代において、雄（14 日齢）で嗅覚性方向反応の増加が、探索行動（3 週齢）では水平移動回数の増加（雌）や平均移動速度の減少（雌）、立ち上がり時間の増加（雌雄）などが認められ、自発運動（9 及び 10 週齢）では雌で水平移動回数などに増加が認められた。（資料 69、文献通し No.5）

<繁殖及び児動物への神経行動学的影響の検討（マウス）のまとめ>

【3.1①及び②】の結果、児動物において、複数の神経行動学的検査項目に変化が認められたが、両試験で変化が認められた時期や性別に一貫性がなく、用量相関性も明確でなかった。

Ⅲ. 農薬使用者暴露許容量 (AOEL)

急性毒性試験の結果において、急性経口毒性のLD₅₀はラットで >2,000 mg/kg 体重、急性経皮毒性のLD₅₀はラットで >2,000 mg/kg 体重であった一方、急性吸入毒性のLC₅₀は1.22~2.51 mg/Lであり、吸入経路における毒性が比較的強く、強直性/間代性痙攣、振戦等が認められた。しかし、振戦はラットを用いた急性経口毒性試験及び急性神経毒性試験においても認められており、また、痙攣についてもマウスを用いた一般薬理試験（経口投与）において認められていることから、これらの所見は吸入経路に特異的な毒性影響を示すものではないと判断した。また、ラットを用いた28日間反復経皮投与毒性試験①及び②では、雌雄で肝臓への影響（肝細胞肥大等）、甲状腺ろ胞細胞肥大／過形成等が認められた。しかし、これらの所見は反復経口投与毒性試験においても観察されており、経皮経路に特異的な毒性影響を示すものではないと判断した。

以上より、農薬としての使用方法から、エチプロールの農薬使用者暴露許容量 (AOEL) の設定に当たっては、経皮又は吸入経路特異的な毒性を考慮する必要はないと判断した。よって経口投与による短期毒性試験、生殖・発生毒性試験及び神経毒性試験の結果に基づき AOEL を設定する（表 8）。

各試験で得られたエチプロールの無毒性量のうち最小値は、ウサギを用いた発生毒性試験①の母動物における体重増加抑制等、ウサギを用いた発生毒性試験②の母動物における体重増加抑制等及び胎児における不完全骨化の増加に基づく無毒性量 0.5 mg/kg 体重/日であり、これを AOEL の設定根拠とすることが妥当と判断した。

なお、ラットを用いた2年間反復経口投与毒性/発がん性併合試験②において、250 ppm 投与群（雄：10.8 mg/kg 体重/日、雌：14.7 mg/kg 体重/日）の雌雄で甲状腺ろ胞細胞腺腫の発生頻度の増加傾向、雄で皮下脂肪腫の発生頻度の有意な増加、雌で卵巣セルトリ細胞様腺腫の発生頻度の有意な増加、マウスを用いた18か月間発がん性試験①において、3,000 ppm 投与群（雄：358 mg/kg 体重/日、雌：328 mg/kg 体重/日）の雌雄で肝細胞腺腫の発生頻度の有意な増加、雄で肝細胞癌の発生頻度の有意な増加、マウスを用いた18か月間発がん性試験②において、300 ppm 投与群の雌（73.5 mg/kg 体重/日）で肝細胞腺腫の発生頻度の有意な増加が認められたが、腫瘍の発生機序は遺伝毒性メカニズムとは考え難く、評価に当たり閾値を設定することが可能であると考えられた。AOEL の設定根拠試験であるウサギを用いた発生毒性試験の無毒性量 0.5 mg/kg 体重/日は、腫瘍の発生頻度の有意な増加が認められた最小投与量（250 ppm、雄：10.8 mg/kg 体重/日、雌：14.7 mg/kg 体重/日）及び増加が認められなかった最小投与量（75 ppm、雄 3.21 mg/kg 体重/日、雌：4.40 mg/kg 体重/日）より十分に小さいことから、発がん性に関しては、十分なマージンが確保されていると判断した。

また、最小の無毒性量に近い投与量におけるラットを用いた動物代謝試験の経口吸収率は、胆汁中排泄試験の 5 mg/kg 体重投与群の 82.0～85.1%であり（表 7）、いずれも 80%を超えることから、AOEL の設定に当たっては、経口吸収率による補正は必要ないと判断した。

表 7 エチプロールを経口投与した場合の経口吸収率（%）

投与量	5 mg/kg体重		1,000 mg/kg体重	
性別	雄	雌	雄	雌
経口吸収率（%）	82.0	85.1	10.6	8.54
総回収率（%）	93.9	99.1	96.9	93.6

表の値は投与後 96 時間の 5 匹の平均値

以上の結果から、ウサギを用いた発生毒性試験①及び②の無毒性量 0.5 mg/kg 体重/日を安全係数 100 で除した 0.005 mg/kg 体重/日を農薬使用者暴露許容量（AOEL）と設定した。

AOEL

0.005 mg/kg 体重/日

（AOEL 設定根拠試験①）

発生毒性試験①

（動物種）

ウサギ

（期間）

妊娠 6～27 日

（投与方法）

強制経口

（無毒性量）

0.5 mg/kg 体重/日

（毒性所見）

母動物：体重減少/体重増加抑制等

（AOEL設定根拠試験②）

発生毒性試験②

（動物種）

ウサギ

（期間）

妊娠6～28日

（投与方法）

強制経口

（無毒性量）

0.5 mg/kg 体重/日

（毒性所見）

母動物：体重増加抑制等

胎児：不完全骨化の増加

（安全係数）

100

（経口吸収率）

補正しない

表 8 AOEL の設定に関連する毒性影響等

動物種	試験	投与量 (mg/kg 体重/日)	NOAEL (mg/kg 体重/ 日)	LOAEL (mg/kg 体重/ 日)	AOEL 設定に関連する エンドポイント*
ラット	28 日間 反復経口 投与毒性 GLP (資料 18)	雌雄：0、20、100、500、2,500 ppm 雄：0、1.8、9.2、46.1、219 雌：0、2.0、9.6、46.3、220	雄：9.2 雌：9.6	雄：46.1 雌：46.3	雌雄：肝絶対及び比重量増 加等
	90 日間 反復経口 投与毒性① GLP (資料 19)	雌雄：0、20、500、1,500 ppm 雄：0、1.30、32.0、94.7 雌：0、1.52、37.0、114	雄：1.30 雌：1.52	雄：32.0 雌：37.0	雌雄：肝及び甲状腺絶対及 び比重量増加等
	90 日間 反復経口 投与毒性② GLP (資料 20)	雌雄：0、5、20、500、2,500 ppm 雄：0、0.3、1.2、30.5、155 雌：0、0.4、1.5、37.6、188	雄：1.2 雌：1.5	雄：30.5 雌：37.6	雌雄：小葉中心性肝細胞肥 大等
	90 日間 反復経口 投与神経毒 性① GLP (資料 51)	雌雄：0、20、500、1,500 ppm 雄：0、1.26、31.2、95.2 雌：0、1.50、37.6、110	雄：31.2 雌：37.6	雄：95.2 雌：110	雌雄：肝臓の暗調化及び腫 大 神経毒性は認められなかつ た。
	90 日間 反復経口 投与神経毒 性② GLP (資料 52)	雌雄：0、20、100、400 ppm 雄：0、1.4、7.2、28.7 雌：0、1.7、8.4、33.0	雄：1.4 雌：8.4	雄：7.2 雌：33.0	雄：甲状腺重量増加 雌：肝及び甲状腺重量増加 神経毒性は認められなかつ た。
	2 世代 繁殖毒性① GLP (資料 42)	雌雄：0、20、75、500 ppm P 雄：0、1.21、4.51、29.5 P 雌：0、1.46、5.29、35.8 F ₁ 雄：0、1.39、5.12、34.7 F ₁ 雌：0、1.55、5.81、38.4	親動物及び児 動物： P 雄：4.51 P 雌：5.29 F ₁ 雄：5.12 F ₁ 雌：5.81	親動物及び児 動物： P 雄：29.5 P 雌：35.8 F ₁ 雄：34.7 F ₁ 雌：38.4	親動物 雌雄：甲状腺絶対及び比 重量増加等 児動物 雌雄：体重増加抑制等 繁殖能に対する影響は認め られなかった。
	2 世代 繁殖毒性② GLP (資料 43)	雌雄：0、10、75、500 ppm P 雄：0、0.66、4.77、32.3 P 雌：0、0.78、5.82、37.4 F ₁ 雄：0、0.80、6.03、39.6 F ₁ 雌：0、0.91、6.76、45.2	親動物及び児 動物： P 雄：4.77 P 雌：5.82 F ₁ 雄：6.03 F ₁ 雌：6.76	親動物及び児 動物： P 雄：32.3 P 雌：37.4 F ₁ 雄：39.6 F ₁ 雌：45.2	親動物 雌雄：肝絶対及び比重量 増加等 児動物 雌雄：体重増加抑制等 繁殖能に対する影響は認め られなかった。
	発生毒性① GLP (資料 44)	0、3、10、60 (妊娠 6～19 日投与)	母動物：10 胎 児：60	母動物：60 胎 児：－	母動物：甲状腺ろ胞細胞肥 大等 胎児：毒性所見なし 催奇形性は認められなかつ た。

	発生毒性② GLP (資料 45)	0、3、10、30 (妊娠 6～20 日投与)	母動物：3 胎 児：10	母動物：10 胎 児：30	母動物：肝重量増加 胎児：骨化遅延 催奇形性は認められなかった。
	2 年間反復 経口投与毒 性/発がん 性併合① GLP (資料 38)	雌雄：0、20、75、250 ppm 反復経口投与毒性群 雄：0、0.935、3.52、11.6 雌：0、1.16、4.48、14.9 発がん性群 雄：0、0.811、3.10、10.6 雌：0、1.06、4.00、13.3	雄：0.811 雌：1.06	雄：3.10 雌：4.00	雄：肝好塩基性変異細胞巢 等 雌：肝臓限局性うっ血 発がん性は認められなかった。
	2 年間反復 経口投与毒 性/発がん 性併合② GLP (資料 39)	雌雄：0、5、20、75、250 ppm 雄：0、0.22、0.85、3.21、10.8 雌：0、0.29、1.17、4.40、14.7	雄：0.85 雌：1.17	雄：3.21 雌：4.40	雄：PT 延長等 雌：肝絶対及び比重量増加 等 (雌雄：甲状腺ろ胞細胞腺腫 発生頻度増加傾向、雄：皮下 脂肪腫発生頻度増加、雌：卵 巢セルトリ細胞様腺腫発生 頻度増加)
マウス	18 か月間 発がん性① GLP (資料 40)	雌雄：0、150、650、3,000 ppm 雄：0、16.8、77.2、358 雌：0、15.6、70.0、328	雄：16.8 雌：70.0	雄：77.2 雌：328	雄：体重増加抑制 雌：肝絶対及び比重量増加 等 (雄：肝細胞腺腫及び肝細胞 癌発生頻度増加、雌：肝細胞 腺腫発生頻度増加)
	18 か月間 発がん性② GLP (資料 41)	雌雄：0、10、50、150、300 ppm 雄：0、1.7、8.6、25.6、50.8 雌：0、1.7、12.5、36.3、73.5	雄：25.6 雌：36.3	雄：50.8 雌：73.5	雄：ALT 増加等 雌：肝絶対及び比重量増加 (雌：肝細胞腺腫発生頻度増 加)
ウサギ	発生毒性① GLP (資料 46)	0、0.5、2.0、4.0 (妊娠 6～27 日投与)	母動物：0.5 胎児：2.0	母動物：2.0 胎児：4.0	母動物：体重減少/体重増加 抑制等 胎児：低体重(雄) 催奇形性は認められなかった。
	発生毒性② GLP (資料 47)	0、0.25、0.5、2.0、4.0 (妊娠 6～28 日投与)	母動物及び胎 児：0.5	母動物及び胎 児：2.0	母動物：体重増加抑制等 胎児：不完全骨化の増加 催奇形性は認められなかった。
イヌ	90 日間 反復経口 投与毒性① GLP (資料 23)	雌雄：0、30、90、200 ppm 雄：0、0.931、2.86、6.56 雌：0、1.08、3.12、7.10	雄：2.86 雌：3.12	雄：6.56 雌：7.10	雌雄：小葉中心性肝細胞肥 大等

	90 日間 反復経口 投与毒性② GLP (資料 24)	雌雄：0、30、90、200 ppm 雄：0、1.0、3.2、7.6 雌：0、1.1、3.6、8.5	雄：1.0 雌：3.6	雄：3.2 雌：8.5	雄：体重増加抑制等 雌：ALP 増加等
	1 年間 反復経口 投与毒性 GLP (資料 37)	雌雄：0、9、30、90 ppm 雄：0、0.27、0.70、2.73 雌：0、0.22、0.76、2.51	雄：0.70 雌：0.76	雄：2.73 雌：2.51	雌雄：体重増加抑制

ー：最小毒性量は設定できなかった。

*：最小毒性量で認められた主な毒性所見を示す。

IV. 急性農薬使用者暴露許容量 (AAOEL)

エチプロールの単回経口投与等により生ずる可能性のある毒性影響 (表 9) に対する無毒性量のうち最小値は、ウサギを用いた発生毒性試験①及び②の無毒性量 2.0 mg/kg 体重/日であったが、妊娠ウサギを用いた単回経口投与試験において無毒性量 2.2 mg/kg 体重が得られている。ウサギを用いた発生毒性試験①及び②において認められた影響は母動物における体重減少/体重増加抑制及び摂餌量減少であったが、非妊娠ウサギを用いた単回経口投与試験の結果 (無毒性量 3.0 mg/kg 体重) から、妊娠ウサギにおいて、より低い用量で影響が認められる可能性が否定できないと考えられたことから、妊娠ウサギを用いた単回経口投与試験の無毒性量 2.2 mg/kg 体重を根拠として、AOEL と同様に経口吸収率による補正は必要ないと判断し、安全係数 100 で除した 0.022 mg/kg 体重を急性農薬使用者暴露許容量 (AAOEL) と設定した。

AAOEL	0.022mg/kg 体重
(AAOEL 設定根拠試験)	単回経口投与試験
(動物種)	妊娠ウサギ
(期間)	単回
(投与方法)	強制経口
(無毒性量)	2.2 mg/kg 体重/日
(毒性所見)	なし
(安全係数)	100
(経口吸収率)	補正しない

表 9 AAOEL の設定に関連する毒性影響等

動物種	試験	投与量 (mg/kg 体重又は mg/kg 体重/日)	無毒性量及び AAOEL に関連するエンドポイント* (mg/kg 体重又は mg/kg 体重/日)
ラット	急性経口毒性 GLP (資料 3)	雌雄：5,000、7,080	雌雄：－ 雌雄：自発運動低下、眼瞼下垂、円背位等
	急性経口毒性 GLP (資料 5)	雌：2,000	－ 振戦、体重減少等
	発生毒性① GLP (資料 44)	0、3、10、60	母動物：10 体重増加抑制、摂餌量減少
	発生毒性② GLP (資料 45)	0、3、10、30	母動物：10 体重減少、摂餌量減少
	急性神経毒性① GLP (資料 48)	雌雄：0、20、200、2,000	雄：200 雌：20 雄：振戦等 雌：自発運動量減少等
	急性神経毒性② GLP (資料 49)	雌雄：0、100、500、2,000	雌雄：－ 雌雄：着地開脚幅減少等
	急性神経毒性③ GLP (資料 50)	雌雄：0、10、25、35、250	雄：35 雌：25 雄：運動量減少等 雌：覚醒程度低下等
	一般薬理 (腎機能) GLP (資料 53)	雄：0、50、120、500、2,000	50 尿量増加
マウス	一般薬理 (一般状態) GLP (資料 53)	雄：0、50、120、500、2,000	50 痙攣
	一般薬理 (自発運動量) GLP (資料 53)	雄：0、10、25、50、120、500、2,000	25 自発運動抑制
ウサギ	単回経口投与 GLP (資料 65)	雌：0、0.85、1.5、3.0	3.0 毒性所見なし
	単回経口投与 (妊娠ウサギ) GLP (資料 66)	0、1.5、2.2	2.2 毒性所見なし
	発生毒性① GLP (資料 46)	0、0.5、2.0、4.0	母動物：2.0 体重減少/体重増加抑制、摂餌量減少

	発生毒性② GLP (資料 47)	0、0.25、0.5、2.0、4.0	母動物：2.0 体重増加抑制、摂餌量減少
イヌ	90 日間 反復経口 投与毒性② GLP (資料 24)	0、30、90、200 ppm 雌：0、1.1、3.6、8.5	3.6 体重増加抑制

ー：無毒性量は設定されなかった。

*：最小毒性量又は最小作用量で認められた主な毒性所見を示す。

V. 暴露量の推計

1. 経皮吸収試験

(1) 経皮吸収率の推定

(ア) ^{14}C 標識エチプロールを用いたヒト *in vitro* 経皮吸収試験①（資料 70、GLP）

試験方法：

調製方法：製剤については、 ^{14}C エチプロールに非標識エチプロールを添加し、さらに製剤白試料と混合して104 g ai/Lになるように調製した（製剤）。また、希釈液については、 ^{14}C エチプロールに非標識エチプロールを添加し、さらに製剤白試料及び水と混合して0.42 g ai/L 及び0.1 g ai/L になるように調製した（247.6倍希釈液及び1,040倍希釈液）。

採取試料：試験容器（レセプターチャンバー）にレセプター液を満たし、その上部にヒトの皮膚試料を接触させて、上記の調製した製剤、247.6倍希釈液及び1,040倍希釈液を皮膚試料の表面に均一に適用した。処理8時間後に皮膚表面を洗浄剤で洗い、綿棒で拭き取り、表面に残存する放射性物質を回収した。処理24時間後に皮膚試料を採取し、テープにより角質層中の放射性物質を回収し（テープストリップ）、その濃度及び回収率等を測定した。また、レセプター液を経時的に採取し、皮膚を透過した放射性物質の濃度を測定した。

試験例数：製剤及び希釈液のいずれも、皮膚の健全性の基準（0.5 g/m²/h<経皮水分蒸散量（TEWL）≤10 g/m²/h）を満たした 8 例で実施された。

試験結果：製剤、247.6倍希釈液及び1,040倍希釈液を用いた経皮吸収試験の結果の概要を表10に示す。

表10：製剤、247.6倍希釈液及び1,040倍希釈液の経皮吸収（ヒト）^a

	製剤		希釈液 1		希釈液 2	
皮膚試料数	8		8		8	
設定濃度 (mg/mL)	104		0.42		0.1	
設定投与量 (µg/cm ²)	1,040		4.2		1	
平均実投与量 (µg/cm ²)	1,035		3		0.47	
回収率 (%)	平均	SD	平均	SD	平均	SD
<u>吸収率から除外可能な量</u>						
8、24 時間後の皮膚試料洗浄液	99.23	2.00	85.30	8.33	83.32	8.20
ドナーチャンバー洗浄液	0.07	0.09	0.34	0.52	0.18	0.18
<u>皮膚試料に関連する量</u>						
テープストリップ 1-2	0.03	0.02	5.89	4.17	4.42	2.07
テープストリップ 3-x	0.03	0.02	6.60	3.40	5.61	3.97
皮膚試料中残渣量	0.02	0.01	2.82	3.09	3.38	2.11
<u>吸収量</u>						
レセプター液	0.01	0.00	0.56	0.57	2.29	1.58
レセプターチャンバー洗浄液	0.01	0.00	0.02	0.00	0.05	0.00
総回収率	99.39	1.96	99.04	3.51	99.25	3.71
試料採取期間の半分の期間における透過率 (t _{0.5}) の信頼下限値 (LLC of t _{0.5})	100.00	0.00	75.13	12.19	75.36	8.67
吸収は完全か否か	Yes はい		Yes はい		Yes はい	
LLC of t _{0.5} ≤ 75% のときの吸収量	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A
LLC of t _{0.5} > 75% のときの吸収量	0.03	0.01	3.39	3.47	5.72	3.38
補正吸収量	0.03	0.01	3.39	3.47	5.72	3.38
最終吸収量	0.040		6.312		8.564	
最終吸収量（丸め値）	0.04		6.3		8.6	

^a : LOQ 未満の測定値は LOQ の 1/2 の値、ND は 0% として BfR の経皮吸収率計算シートで解析

N/A : 該当なし

ヒト *in vitro* 経皮吸収率の推定結果

¹⁴C 標識エチプロールを用いたヒト *in vitro* 経皮吸収試験結果を農薬使用者への影響評価ガイダンスに基づき評価した結果、以下のように提出されたエチプロール 10.0%水和剤の経皮吸収率を推定した。

① 角質層中残渣量（テープストリップ）

製剤、247.6 倍希釈液及び 1,040 倍希釈液について、試料採取期間は 24 時間であり、被験物質処理後 12 時間のレセプター液への透過率の信頼下限値 (LLC of t_{0.5}) は 75%以上であったことから、全てのテープストリップ由来の被験物質を経皮吸収量から除外した。

② 試験の回収率による補正

製剤、247.6 倍希釈液及び 1,040 倍希釈液のいずれも平均回収率が

95%以上であったことから、回収率による各吸収率の補正は行わなかった。

③ サンプル間の変動

製剤、247.6 倍希釈液及び 1,040 倍希釈液の皮膚試料数はいずれも 8 であったことから、係数 0.84 を標準偏差に乘じ平均値に加算して経皮吸収率を算出した。その結果、製剤は 0.040%、247.6 倍希釈液は 6.31%、1,040 倍希釈液は 8.564%であった。

以上から、本試験に用いたエチプロール 10.0%水和剤のヒト *in vitro* 経皮吸収率は 0.04%、247.6 倍希釈液のヒト *in vitro* 経皮吸収率は 6.3%、1,040 倍希釈液のヒト *in vitro* 経皮吸収率は 8.6%と推定した。

また、試験に用いた製剤は、成分に有機溶媒を含有するため、液体製剤（有機溶剤ベース）と判断した。

(イ) ^{14}C 標識エチプロールを用いたヒト *in vitro* 経皮吸収試験②（資料 71、GLP）

試験方法：

調製方法：製剤については、 ^{14}C エチプロール及び市販製剤を混合して 100 g ai/L になるように調製した（製剤）。また、希釈液については、 ^{14}C エチプロール、製剤白試料及び水を混合して 0.1 g ai/L になるように調製した（1,000倍希釈液）。

採取試料：試験容器（レセプターチャンバー）にレセプター液を満たし、その上部にヒトの皮膚試料を接触させて、上記の調製した製剤及び1,000倍希釈液を皮膚試料の表面に均一に適用した。処理8時間後及び24時間後に皮膚表面を洗浄剤で洗い、綿棒で拭き取り、表面に残存する放射性物質を回収した。処理24時間後に皮膚試料を採取し、テープにより角質層中の放射性物質を回収し（テープストリップ）、その濃度及び回収率等を測定した。また、レセプター液を経時的に採取し、皮膚を透過した放射性物質の濃度を測定した。

試験例数：製剤については、トリチウム水による皮膚透過性の適合基準（ $K_p \leq 3.0 \times 10^{-3} \text{ cm/h}$ ）を満たした7例、1,000倍希釈液については当該基準を満たした8例で実施された。

試験結果：製剤及び1,000倍希釈液を用いた経皮吸収試験の結果の概要を表11に示す。

なお、1,000倍希釈液について、セル9及び23のレセプター液への吸収量が他のセルと比較して著しく高く（他のセルの平均の約7倍）、皮膚試料のバリア機能が損なわれていたと考えられたため、1,000倍希釈液の経皮吸収率の計算から除外した。

表11：製剤及び1,000倍希釈液の経皮吸収（ヒト）^a

	製剤		希釈液 (1:1000)	
皮膚試料数	7		6 ^b	
設定濃度 [mg/mL]	100		0.1	
設定投与量 [μg/cm ²]	1,000		1	
平均実投与量 [μg/cm ²]	1,054		0.97	
回収率 [%]	平均	SD	平均	SD
<u>吸収率から除外可能な量</u>				
8、24時間後の皮膚試料洗浄液	102.03	2.36	99.78	2.00
ドナーチャンバー洗浄液	0.01	0.00	0.27	0.43
<u>皮膚試料に関連する量</u>				
テープストリップ1-2	0.03	0.02	0.51	0.21
テープストリップ3-x	0.04	0.00	0.04	0.00
皮膚試料中残渣量	0.01	0.02	0.01	0.00
<u>吸収量</u>				
レセプター液	0.04	0.01	0.41	0.10
レセプターチャンバー洗浄液	0.01	0.00	0.01	0.00
総回収率	102.15	2.34	101.02	2.06
試料採取期間の半分の期間における 透過率 (t _{0.5}) の信頼下限値 (LLC of t _{0.5})	78.39	13.28	81.51	4.77
吸収は完全か否か	はい		はい	
LLC of t _{0.5} ≤ 75%のときの吸収量	N/A	N/A	N/A	N/A
LLC of t _{0.5} > 75%のときの吸収量	0.05	0.02	0.42	0.10
補正吸収量	0.05	0.02	0.42	0.10
最終吸収量	0.073		0.528	
最終吸収量（丸め値）	0.07		0.53	

^a：LOQ未満の測定値はLOQの1/2の値としてBfRの経皮吸収率計算シートで解析

N/A：該当なし

^b：皮膚の損傷が考えられ、統計解析の結果外れ値となった2試料を除いた試料数

ヒト *in vitro* 経皮吸収率の推定結果

¹⁴C 標識エチプロールを用いたヒト *in vitro* 経皮吸収試験結果を農薬使用者への影響評価ガイダンスに基づき評価した結果、以下のように提出されたエチプロール 10.0%水和剤の経皮吸収率を推定した。

① 角質層中残渣量（テープストリップ）

製剤及び 1,000 倍希釈液のいずれについても試料採取期間は 24 時間であり、被験物質処理後 12 時間のレセプター液への透過率の信頼下限値（LLC of $t_{0.5}$ ）は 75%以上であったことから、全てのテープストリップ由来の被験物質を経皮吸収量から除外した。

② 試験の回収率による補正

製剤及び 1,000 倍希釈液のいずれも平均回収率が 95%以上であったことから、回収率による各吸収率の補正は行わなかった。

③ サンプル間の変動

製剤の皮膚試料数は 7、1,000 倍希釈液の皮膚試料数は 6 であったことから、それぞれ係数 0.92 及び 1.0 を標準偏差に乘じ平均値に加算して経皮吸収率を算出した。その結果、製剤は 0.073%、1,000 倍希釈液は 0.528%であった。

以上から、本試験に用いたエチプロール 10.0%水和剤のヒト *in vitro* 経皮吸収率は 0.07%、1,000 倍希釈液のヒト *in vitro* 経皮吸収率は 0.53%と推定した。

また、試験に用いた製剤は、成分に有機溶媒を含有するため、液体製剤（有機溶剤ベース）と判断した。

（ウ）暴露評価に用いる経皮吸収率

① キラップ粉剤DL及びホクコーキラップ粉剤DL

申請されたキラップ粉剤DL及びホクコーキラップ粉剤DL（エチプロール 0.50%粉剤）は経皮吸収試験①に用いた製剤と異なる組成であることから、試験に用いた製剤と申請製剤であるキラップ粉剤DL及びホクコーキラップ粉剤DLの皮膚刺激性、皮膚感作性及び剤型の比較を表 12 に示す（資料 72～75、GLP）。

申請製剤の皮膚刺激性及び皮膚感作性が試験製剤と同等であること及び申請製剤の剤型が固体製剤かつ試験製剤の剤型が液体製剤（有機溶剤ベース）であることから、農薬使用者への影響評価ガイダンスに基づき、エチプロール 10.0%水和剤を用いたエチプロールの経皮吸収試験の結果を本剤の経皮吸収率の推定に利用できると判断した。

表 12：試験製剤と本剤の皮膚刺激性、皮膚感作性及び剤型

	試験製剤	申請製剤
試験	区分	区分
皮膚刺激性	区分外	区分外
皮膚感作性	区分外	区分外
剤型	液体製剤 (有機溶剤ベース)	固体製剤

キラップ粉剤DL及びホクコーキラップ粉剤DLのエチプロールのリスク評価に用いる経皮吸収率は、農薬使用者への影響評価ガイダンスに基づき、表 13 のとおり推定した。

表 13：暴露評価に用いる経皮吸収率

本剤の使用方法における希釈倍数	暴露評価に用いる経皮吸収率 (%)	算出根拠
製剤 (1 倍)	6.3	経皮吸収試験の 247.6 倍希釈液の経皮吸収率を利用。

② キラップフロアブル及びホクコーキラップフロアブル

申請されたキラップフロアブル及びホクコーキラップフロアブル (エチプロール 10.0%水和剤) は経皮吸収試験①に用いた製剤と組成が同じであることから、エチプロールのリスク評価に用いる経皮吸収率は農薬使用者への影響評価ガイダンスに基づき、表 14 のとおり適用する。

表 14：暴露評価に用いる経皮吸収率

本剤の使用方法における希釈倍数	暴露評価に用いる経皮吸収率 (%)	算出根拠
製剤 (1倍)	0.04	経皮吸収試験の製剤の経皮吸収率を利用。
8倍	6.3	経皮吸収試験の247.6倍希釈液の経皮吸収率を利用。
16倍		
100倍		
500倍	8.6	経皮吸収試験の1,040倍希釈液の経皮吸収率を利用。
1,000倍		
2,000倍	11	経皮吸収試験の247.6倍希釈液及び1,040倍希釈液の経皮吸収率2点を用いた線形外挿法により算出。

③ イモチエースキラップ粒剤

申請されたイモチエースキラップ粒剤 (エチプロール 2.0%・メトミノストロビン 4.0%粒剤) は経皮吸収試験①に用いた製剤と異なる組成であることから、試験に用いた製剤と申請製剤であるイモチエースキラップ粒

剤の皮膚刺激性、皮膚感作性及び剤型の比較を表 15 に示す(資料 76～77、GLP)。

申請製剤の皮膚刺激性及び皮膚感作性が試験製剤と同等であること及び申請製剤の剤型が固体製剤かつ試験製剤の剤型が液体製剤（有機溶剤ベース）であることから、農薬使用者への影響評価ガイダンスに基づき、エチプロール 10.0%水和剤を用いたエチプロールの経皮吸収試験の結果を本剤の経皮吸収率の推定に利用できると判断した。

表 15：試験製剤と本剤の皮膚刺激性、皮膚感作性及び剤型

	試験製剤	申請製剤
試験	区分	区分
皮膚刺激性	区分外	区分外
皮膚感作性	区分外	区分外
剤型	液体製剤（有機溶剤ベース）	固体製剤

イモチエースキラップ粒剤のエチプロールのリスク評価に用いる経皮吸収率は、農薬使用者への影響評価ガイダンスに基づき、表 16 のとおり推定した。

表 16：暴露評価に用いる経皮吸収率

本剤の使用方法における希釈倍数	暴露評価に用いる経皮吸収率 (%)	算出根拠
製剤 (1 倍)	6.3	経皮吸収試験の 247.6 倍希釈液の経皮吸収率を利用。

④ キラップ粒剤

申請されたキラップ粒剤（エチプロール 2.0%粒剤）は経皮吸収試験①に用いた製剤と異なる組成であることから、試験に用いた製剤と申請製剤であるキラップ粒剤の皮膚刺激性、皮膚感作性及び剤型の比較を表 17 に示す（資料 78～79、GLP）。

申請製剤の皮膚刺激性及び皮膚感作性が試験製剤と同等であること及び申請製剤の剤型が固体製剤かつ試験製剤の剤型が液体製剤（有機溶剤ベース）であることから、農薬使用者への影響評価ガイダンスに基づき、エチプロール 10.0%水和剤を用いたエチプロールの経皮吸収試験の結果を本剤の経皮吸収率の推定に利用できると判断した。

表 17：試験製剤と本剤の皮膚刺激性、皮膚感作性及び剤型

	試験製剤	申請製剤
試験	区分	区分
皮膚刺激性	区分外	区分外
皮膚感作性	区分外	区分外
剤型	液体製剤（有機溶剤ベース）	固体製剤

キラップ粒剤のエチプロールのリスク評価に用いる経皮吸収率は、農薬使用者への影響評価ガイダンスに基づき、表 18 のとおり推定した。

表 18：暴露評価に用いる経皮吸収率

本剤の使用方法における希釈倍数	暴露評価に用いる経皮吸収率 (%)	算出根拠
製剤 (1 倍)	6.3	経皮吸収試験の 247.6 倍希釈液の経皮吸収率を利用。

⑤ ブラシンキラップフロアブル及びホクコーブラシンキラップフロアブル

申請されたブラシンキラップフロアブル及びホクコーブラシンキラップフロアブル(エチプロール 5.0%・フェリムゾン 15.0%・フサライド 15.0% 水和剤) は経皮吸収試験①に用いた製剤と異なる組成であることから、試験に用いた製剤と申請製剤であるブラシンキラップフロアブル及びホクコーブラシンキラップフロアブルの皮膚刺激性、皮膚感作性及び剤型の比較を表 19 に示す（資料 80～81、GLP）。

申請製剤の皮膚刺激性及び皮膚感作性が試験製剤と同等であること及び申請製剤の剤型が液体製剤（水ベース）かつ試験製剤の剤型が液体製剤（有機溶剤ベース）であることから、農薬使用者への影響評価ガイダンスに基づき、エチプロール 10.0%水和剤を用いたエチプロールの経皮吸収試験の結果を本剤の経皮吸収率の推定に利用できると判断した。

表 19：試験製剤と本剤の皮膚刺激性、皮膚感作性及び剤型

	試験製剤	申請製剤
試験	区分	区分
皮膚刺激性	区分外	区分外
皮膚感作性	区分外	区分外
剤型	液体製剤（有機溶剤ベース）	液体製剤（水ベース）

ブラシキラップフロアブル及びホクコーブラシキラップフロアブルのエチプロールのリスク評価に用いる経皮吸収率は、農薬使用者への影響評価ガイダンスに基づき、表 20 のとおり推定した。

表 20：暴露評価に用いる経皮吸収率

本剤の使用方法における希釈倍数	暴露評価に用いる経皮吸収率(%)	算出根拠
製剤(1倍)	6.3	経皮吸収試験の247.6倍希釈液の経皮吸収率を利用。
8倍		
300倍	8.6	経皮吸収試験の1,040倍希釈液の経皮吸収率を利用。
1,000倍	11	経皮吸収試験の247.6倍希釈液及び1,040倍希釈液の経皮吸収率2点を用いた線形外挿法により算出。

⑥ ホクコーラブサイドキラップ粉剤DL

申請されたホクコーラブサイドキラップ粉剤DL（エチプロール0.50%・フサライド2.5%粉剤）は経皮吸収試験①に用いた製剤と異なる組成であることから、試験に用いた製剤と申請製剤であるホクコーラブサイドキラップ粉剤DLの皮膚刺激性、皮膚感作性及び剤型の比較を表 21 に示す（資料 82～83、GLP）。

申請製剤の皮膚刺激性及び皮膚感作性が試験製剤と同等であること及び申請製剤の剤型が固体製剤かつ試験製剤の剤型が液体製剤（有機溶剤ベース）であることから、農薬使用者への影響評価ガイダンスに基づき、エチプロール 10.0%水和剤を用いたエチプロールの経皮吸収試験の結果を本剤の経皮吸収率の推定に利用できると判断した。

表 21：試験製剤と本剤の皮膚刺激性、皮膚感作性及び剤型

	試験製剤	申請製剤
試験	区分	区分
皮膚刺激性	区分外	区分外
皮膚感作性	区分外	区分外
剤型	液体製剤（有機溶剤ベース）	固体製剤

ホクコーラブサイドキラップ粉剤DLのエチプロールのリスク評価に用いる経皮吸収率は、農薬使用者への影響評価ガイダンスに基づき、表 22 のとおり推定した。

表 22：暴露評価に用いる経皮吸収率

本剤の使用方法における希釈倍数	暴露評価に用いる経皮吸収率 (%)	算出根拠
製剤 (1 倍)	6.3	経皮吸収試験の 247.6 倍希釈液の経皮吸収率を利用。

⑦ ダブルカットK粉剤DL

申請されたダブルカットK粉剤DL（エチプロール 0.50%・カスガマイシン 0.11%・トリシクラゾール 0.50%粉剤）は経皮吸収試験①に用いた製剤と異なる組成であることから、試験に用いた製剤と申請製剤であるダブルカットK粉剤DLの皮膚刺激性、皮膚感作性及び剤型の比較を表 23 に示す（資料 84～85、GLP）。

申請製剤の皮膚刺激性及び皮膚感作性が試験製剤と同等であること及び申請製剤の剤型が固体製剤かつ試験製剤の剤型が液体製剤（有機溶剤ベース）であることから、農薬使用者への影響評価ガイダンスに基づき、エチプロール 10.0%水和剤を用いたエチプロールの経皮吸収試験の結果を本剤の経皮吸収率の推定に利用できると判断した。

表 23：試験製剤と本剤の皮膚刺激性、皮膚感作性及び剤型

	試験製剤	申請製剤
試験	区分	区分
皮膚刺激性	区分外	区分外
皮膚感作性	区分外	区分外
剤型	液体製剤 (有機溶剤ベース)	固体製剤

ダブルカットK粉剤DLのエチプロールのリスク評価に用いる経皮吸収率は、農薬使用者への影響評価ガイダンスに基づき、表 24 のとおり推定した。

表 24：暴露評価に用いる経皮吸収率

本剤の使用方法における希釈倍数	暴露評価に用いる経皮吸収率 (%)	算出根拠
製剤 (1 倍)	6.3	経皮吸収試験の 247.6 倍希釈液の経皮吸収率を利用。

⑧ ホクコーラブサイドキラップフロアブル

申請されたホクコーラブサイドキラップフロアブル（エチプロール 2.5%・フサライド 12.0%水和剤）は経皮吸収試験①に用いた製剤と異なる組成であることから、試験に用いた製剤と申請製剤であるホクコーラブサ

イドキラップフロアブルの皮膚刺激性、皮膚感作性及び剤型の比較を表 25 に示す（資料 86～87、GLP）。

申請製剤の皮膚刺激性、皮膚感作性及び剤型が試験製剤と同等であることから、農薬使用者への影響評価ガイダンスに基づき、エチプロール 10.0%水和剤を用いたエチプロールの経皮吸収試験の結果を本剤の経皮吸収率の推定に利用できると判断した。

表 25：試験製剤と本剤の皮膚刺激性、皮膚感作性及び剤型

	試験製剤	申請製剤
試験	区分	区分
皮膚刺激性	区分外	区分外
皮膚感作性	区分外	区分外
剤型	液体製剤（有機溶剤ベース）	液体製剤（有機溶剤ベース）

ホクコーラブサイドキラップフロアブルのエチプロールのリスク評価に用いる経皮吸収率は、農薬使用者への影響評価ガイダンスに基づき、表 26 のとおり推定した。

表 26：暴露評価に用いる経皮吸収率

本剤の使用方法における希釈倍数	暴露評価に用いる経皮吸収率(%)	算出根拠
製剤(1倍)	6.3	経皮吸収試験の247.6倍希釈液の経皮吸収率を利用。
4倍		
150倍	8.6	経皮吸収試験の1,040倍希釈液の経皮吸収率を利用。
500倍	11	経皮吸収試験の247.6倍希釈液及び1,040倍希釈液の経皮吸収率2点を用いた線形外挿法により算出。

⑨ ホクコーラブサイドK 2フロアブル

申請されたホクコーラブサイドK 2フロアブル（エチプロール 8.8%・フサライド 17.5%水和剤）は経皮吸収試験①に用いた製剤と異なる組成であることから、試験に用いた製剤と申請製剤であるホクコーラブサイドK 2フロアブルの皮膚刺激性、皮膚感作性及び剤型の比較を表 27 に示す（資料 88～89、GLP）。

申請製剤の皮膚刺激性、皮膚感作性及び剤型が試験製剤と同等であることから、農薬使用者への影響評価ガイダンスに基づき、エチプロール 10.0%水和剤を用いたエチプロールの経皮吸収試験の結果を本剤の経皮吸収率の推定に利用できると判断した。

表 27：試験製剤と本剤の皮膚刺激性、皮膚感作性及び剤型

	試験製剤	申請製剤
試験	区分	区分
皮膚刺激性	区分外	区分外
皮膚感作性	区分外	区分外
剤型	液体製剤 (有機溶剤ベース)	液体製剤 (有機溶剤ベース)

ホクコーラブサイドK 2フロアブルのエチプロールのリスク評価に用いる経皮吸収率は、農薬使用者への影響評価ガイダンスに基づき、表 28 のとおり推定した。

表 28：暴露評価に用いる経皮吸収率

本剤の使用方法における希釈倍数	暴露評価に用いる経皮吸収率(%)	算出根拠
製剤(1倍)	6.3	経皮吸収試験の247.6倍希釈液の経皮吸収率を利用。
8倍		
30倍		
300倍	8.6	経皮吸収試験の1,040倍希釈液の経皮吸収率を利用。
1,000倍	8.9	経皮吸収試験の247.6倍希釈液及び1,040倍希釈液の経皮吸収率2点を用いた線形外挿法により算出。

⑩ アミスタッドフロアブル及びジェイサクセスフロアブル

申請されたアミスタッドフロアブル及びジェイサクセスフロアブル（エチプロール 10.0%水和剤）は経皮吸収試験②に用いた製剤と組成が同じであることから、エチプロールのリスク評価に用いる経皮吸収率は農薬使用者への影響評価ガイダンスに基づき、表 29 のとおり適用する。

表 29：暴露評価に用いる経皮吸収率

本剤の使用方法における希釈倍数	暴露評価に用いる経皮吸収率 (%)	算出根拠
製剤 (1倍)	0.07	経皮吸収試験の製剤の経皮吸収率を利用。
100倍	0.53	経皮吸収試験の1,000倍希釈液の経皮吸収率を利用。
500倍		
1,000倍		
2,000倍	1.0	経皮吸収試験の製剤及び1,000倍希釈液の経皮吸収率2点を用いた線形外挿法により算出。

⑪ アミスタッドDL粉剤及びジェイサクセスDL粉剤

申請されたアミスタッドDL粉剤及びジェイサクセスDL粉剤（エチプロール 0.50%粉剤）は経皮吸収試験②に用いた製剤と異なる組成であるこ

とから、試験に用いた製剤と申請製剤であるアミスタッドD L粉剤及びジェイサクセスD L粉剤の皮膚刺激性、皮膚感作性及び剤型の比較を表 30 に示す（資料 90～93、GLP）。

申請製剤の皮膚刺激性及び皮膚感作性が試験製剤と同等であること及び申請製剤の剤型が固体製剤かつ試験製剤の剤型が液体製剤（有機溶剤ベース）であることから、農薬使用者への影響評価ガイダンスに基づき、エチプロール 10.0%水和剤を用いたエチプロールの経皮吸収試験②の結果を本剤の経皮吸収率の推定に利用できると判断した。

表 30：試験製剤と本剤の皮膚刺激性、皮膚感作性及び剤型

	試験製剤	申請製剤
試験	区分	区分
皮膚刺激性	区分外	区分外
皮膚感作性	区分外	区分外
剤型	液体製剤（有機溶剤ベース）	固体製剤

アミスタッドD L粉剤及びジェイサクセスD L粉剤のエチプロールのリスク評価に用いる経皮吸収率は、農薬使用者への影響評価ガイダンスに基づき、表 31 のとおり推定した。

表 31：暴露評価に用いる経皮吸収率

本剤の使用方法における希釈倍数	暴露評価に用いる経皮吸収率（%）	算出根拠
製剤（1 倍）	0.53	経皮吸収試験の 1,000 倍希釈液の経皮吸収率を利用。

⑫ アミスタッド粒剤及びジェイサクセス粒剤

申請されたアミスタッド粒剤及びジェイサクセス粒剤（エチプロール 2.0%粒剤）は経皮吸収試験②に用いた製剤と異なる組成であることから、試験に用いた製剤と申請製剤であるアミスタッド粒剤及びジェイサクセス粒剤の皮膚刺激性、皮膚感作性及び剤型の比較を表 32 に示す（資料 94～95、GLP）。

申請製剤の皮膚刺激性及び皮膚感作性が試験製剤と同等であること及び申請製剤の剤型が固体製剤かつ試験製剤の剤型が液体製剤（有機溶剤ベース）であることから、農薬使用者への影響評価ガイダンスに基づき、エチプロール 10.0%水和剤を用いたエチプロールの経皮吸収試験②の結果を本剤の経皮吸収率の推定に利用できると判断した。

表 32：試験製剤と本剤の皮膚刺激性、皮膚感作性及び剤型

	試験製剤	申請製剤
試験	区分	区分
皮膚刺激性	区分外	区分外
皮膚感作性	区分外	区分外
剤型	液体製剤 (有機溶剤ベース)	固体製剤

アミスタッド粒剤及びジェイサクセス粒剤のエチプロールのリスク評価に用いる経皮吸収率は、農薬使用者への影響評価ガイダンスに基づき、表 33 のとおり推定した。

表 33：暴露評価に用いる経皮吸収率

本剤の使用方法における希釈倍数	暴露評価に用いる経皮吸収率 (%)	算出根拠
製剤 (1 倍)	0.53	経皮吸収試験の 1,000 倍希釈液の経皮吸収率を利用。

⑬ その他の製剤

①から⑫以外の製剤のリスク評価に用いる経皮吸収率は、農薬使用者への影響評価ガイダンスに基づき、剤型によるデフォルト値を適用する。

2. 圃場における農薬使用者暴露

エチプロールを含有する農薬製剤で実施した圃場における農薬使用者暴露試験結果は提出されていない。

3. 暴露量の推計

申請された製剤について、I. の5. 適用病虫害雑草等の範囲及び使用方法 (別添1) に従って使用した場合の暴露量を予測式により推計した。

推計に当たっては、農薬使用者への影響評価ガイダンス及び予測式に分類していない使用方法についての使用者安全確保の考え方 (令和4年12月1日農業資材審議会農薬分科会農薬使用者安全評価部会決定、令和6年10月24日最終改訂) (以下「部会決定」という。) に準拠した。

推計に用いたパラメータ等及び暴露量の推計結果を別添2に示す。

VI. リスク評価結果

I. の 5. 適用病虫害雑草等の範囲及び使用方法（別添 1）に従って使用した場合の暴露量は、AOEL 及び AAOEL を下回っていた（別添 2）。

評価資料

資料 番号	報告年	表題、出典（試験施設以外の場合） GLP 適合状況（必要な場合）、公表の有無
1	2026	農薬評価書 エチプロール（第5版） 食品安全委員会、公表 URL : https://www.fsc.go.jp/fsciis/attachedFile/download?retrievalId=kya20250416081&fileId=210
2	1999	[¹⁴ C]-RPA 107382: ABSORPTION, DISTRIBUTION, METABOLISM AND EXCRETION IN THE RAT GLP、未公表
3	1997	Acute oral toxicity in the rat RPA107382 GLP、未公表
4	2016	Acute Oral Toxicity Study of Ethiprole (AE0316423) in Rat (OECD Test Guideline No. 423 + CIB and RC, 2014) GLP、未公表
5	2019	Acute Oral Dose Toxicity Study of OATZN in Sprague-Dawley Rats (Acute Toxic Class Method) GLP、未公表
6	1997	Acute dermal toxicity in the rat RPA107382 GLP、未公表
7	2016	Acute Dermal Toxicity Study of Ethiprole (AE0316423) in Rat (OECD Test Guideline No. 402 + CIB and RC, 2014) GLP、未公表
8	2019	Acute Dermal Dose Toxicity Study of OATZN in Sprague-Dawley Rats (Fixed Dose Procedure) GLP、未公表
9	1998	RPA107382: Acute inhalation toxicity (nose only) study in the rat GLP、未公表
10	2016	Acute Inhalation Toxicity Study (Nose-only) in the Rat with Ethiprole technical GLP、未公表
11	2019	OATZN: Acute Inhalation Toxicity Study in Sprague-Dawley Rats GLP、未公表
12	1997	Skin irritation test in the rabbit RPA107382 GLP、未公表
13	2016	Primary Skin Irritation / Corrosion study of Ethiprole (AE0316423) in Rabbit (OECD Test Guideline No. 404 + CIB and RC, 2014) GLP、未公表
14	1997	Eye irritation test in the rabbit RPA107382 GLP、未公表
15	2016	Acute Eye Irritation / Corrosion Study of Ethiprole (AE0316423) in Rabbit (OECD Test Guideline No. 405 + CIB and RC, 2014) GLP、未公表
16	1998	Skin sensitization test in guinea-pigs (Maximization method of Magnusson, B. and Kligman, A.M.) RPA107382 GLP、未公表
17	2019	Skin Sensitization Study of OATZN in Hartley Guinea Pigs (Maximization Test) GLP、未公表

資料 番号	報告年	表題、出典（試験施設以外の場合） GLP 適合状況（必要な場合）、公表の有無
18	2001	28-day toxicity study in the rat by dietary administration Ethiprole (RPA107382) GLP、未公表
19	2019	OATZN: Repeated Dose 90-Day Oral Toxicity Study in Rats GLP、未公表
20	2000	90-day toxicity study in the rat by dietary administration RPA107382 GLP、未公表
21	1999	RPA 107382 preliminary 28 day toxicity study in the C57 B1/6N mice by dietary administration GLP、未公表
22	2019	OATZN: Repeated Dose 90-Day Oral Toxicity Study in Mice GLP、未公表
23	2019	OATZN: Repeated Dose 90-Day Oral Toxicity Study in Dogs GLP、未公表
24	2001	RPA 107382 90 day toxicity study in the dog by dietary administration GLP、未公表
25	1999	Amended report 28-day toxicity study in the dog by dietary administration RPA107382 GLP、未公表
26	2002	A 28-day dermal toxicity study in rats Ethiprole (RPA 107382) GLP、未公表
27	2003	Ethiprole (RPA 107382) Toxicity study by dermal administration to CD rats for 4 weeks GLP、未公表
28	1998	PA107382: Reverse mutation in four histidine-requiring strains of Salmonella typhimurium and one tryptophan-requiring strain of Escherichia coli. GLP、未公表
29	2004	エチプロール原体の細菌を用いた復帰変異試験 GLP、未公表
30	2019	A Bacterial Reverse Mutation Test of OATZN GLP、未公表
31	1999	RPA 107382: Mutation at the thymidine kinase (tk) locus of mouse lymphoma L5178Y cells (MLA) using the microtitre fluctuation technique GLP、未公表
32	1998	Induction of chromosome aberrations in cultured human peripheral blood lymphocytes RPA107382 GLP、未公表
33	2019	Chromosome Aberration Test of OATZN in Cultured Mammalian Cells GLP、未公表
34	2001	Ethiprole (RPA 107382): Measurement of unscheduled DNA synthesis in rat liver using an in vivo/in vitro procedure GLP、未公表
35	1999	RPA 107382: Induction of micronuclei in the bone marrow of treated mice. GLP、未公表
36	2019	Micronucleus Test of OATZN in Mice GLP、未公表
37	2001	Ethiprole (RPA107382) 52-week dietary toxicity in beagle dogs GLP、未公表

資料 番号	報告年	表題、出典（試験施設以外の場合） GLP 適合状況（必要な場合）、公表の有無
38	2022	OATZN: Combined Chronic Toxicity and Carcinogenicity Study in Rats GLP、未公表
39	2001	Chronic toxicity and carcinogenicity study of Ethiprole (RPA 107382) in wistar rat by dietary administration GLP、未公表
40	2021	OATZN: Carcinogenicity Study in Mice GLP、未公表
41	2001	Ethiprole (RPA 107382) Carcinogenicity study by oral route (dietary admixture) in C57BL/6 mice GLP、未公表
42	2021	OATZN: Reproduction Toxicity Study in Rats GLP、未公表
43	2001	Two-generation Reproductive Toxicity Evaluation of Ethiprole (RP107382) Administered in the Feed to CD(R) (Sprague-Dawley) Rats GLP、未公表
44	2020	OATZN: Developmental Toxicity Study in Rats GLP、未公表
45	2000	Developmental toxicity study in the rat by gavage Ethiprole (RPA107382) GLP、未公表
46	2020	OATZN: Developmental Toxicity Study in Rabbits GLP、未公表
47	2000	Developmental toxicity study in the rabbit by gavage Ethiprole (RPA107382) GLP、未公表
48	2021	OATZN: Acute Oral Neurotoxicity Study in Rats GLP、未公表
49	2001	RPA 107382 - Neurotoxicity to Rats by acute oral administration GLP、未公表
50	2001	RPA107382 Neurotoxicity study by a single oral gavage administration to CD rats followed by a 14-day observation period GLP、未公表
51	2021	OATZN: Repeated Dose 90-Day Oral Neurotoxicity Study in Rats GLP、未公表
52	2001	RPA107382 - Dose range finding neurotoxicity to rats by acute oral administration GLP、未公表
53	2002	Ethiproleの生体機能への影響に関する試験 GLP、未公表
54	2001	Ethiprole Investigation into potential effects on thyroid function after two weeks of treatment in male rats using the Perchlorate discharge test GLP、未公表
55	2001	The effect of repeated oral doses of Ethiprole on the pharmacokinetics of intravenously administered ¹²⁵ I-thyroxine (T4) in male rats GLP、未公表
56	2001	The effect of repeated oral doses of ethiprole on the biliary excretion of intravenously administered ¹²⁵ I-Thyroxine (T4) in male rats GLP、未公表

資料 番号	報告年	表題、出典（試験施設以外の場合） GLP 適合状況（必要な場合）、公表の有無
57	2018	Ethiprole - Enzyme and mRNA induction in cultured male han wistar rat hepatocytes 非 GLP、未公表
58	2002	28-Day explanatory toxicity study in the C57BL/6 mouse Ethiprole GLP、未公表
59	2021	Ethiprole - Effects on Cell Proliferation in Cultured Male Han Wistar Rat Primary Hepatocytes GLP、未公表
60	2021	<i>In vitro</i> CYP and UGT induction in human and Wistar rat hepatocytes by Ethiprole 非 GLP、未公表
61	2021	Ethiprole - Evaluation of the Human Relevance of Rodent Hepatocellular Adenomas using Cryopreserved Male Human Hepatocytes GLP、未公表
62	2020	Ethiprole technical: <i>in-vitro</i> inhibition of non-juvenile male han wistar rat thyroperoxidase (TPO)-catalysed guaiacol oxidation GLP、未公表
63	2021	Ethiprole technical: <i>in-vitro</i> inhibition of iodide uptake by sodium/iodide symporter in the rat thyroid-derived cell line FRTL-5 GLP、未公表
64	2010	Ethiprole - 28-day immunotoxicity study in the female rat by dietary administration GLP、未公表
65	2011	Ethiprole acute toxicity study in the rabbit by gavage GLP、未公表
66	2022	Ethiprole: Acute Oral Toxicity Study in Pregnant Female Rabbits GLP、未公表
67	2023	エチプロール公表文献調査報告書 URL : https://www.maff.go.jp/j/nouyaku/saihyoka/attach/pdf/saihyouka_a-26.pdf
68	2017	Reproductive and Neurobehavioral Effects of Ethiprole Administered to Mice in the Diet. Birth Defects Research 2017; 109 (19): 1568–1585
69	2018	Reproductive and neurobehavioral effects of maternal exposure to ethiprole in F1-generation mice, Birth Defects Research 2018; 110(3): 259–275
70	2021	<i>IN-VITRO</i> HUMAN SKIN PENETRATION OF ETHIPROLE IN ETHIPROLE SC 104 GLP、未公表
71	2020	OATZN - In vitro percutaneous penetration of [¹⁴ C]OATZN formulated as OATZN FL through Human Skin Membranes GLP、未公表
72	2003	エチプロールフロアブルのウサギを用いた皮膚刺激性試験 GLP、未公表
73	2002	エチプロールフロアブルのモルモットを用いた皮膚感作性試験 GLP、未公表
74	2006	AVI-210DLD のウサギを用いた皮膚刺激性試験 GLP、未公表
75	2007	AVI-210DLD のモルモットを用いた皮膚感作性試験 (Buehler Test) GLP、未公表

資料 番号	報告年	表題、出典（試験施設以外の場合） GLP 適合状況（必要な場合）、公表の有無
76	2007	BCM-051 粒剤のウサギにおける皮膚刺激性試験 GLP、未公表
77	2007	BCM-051 粒剤のモルモットにおける皮膚感作性試験 GLP、未公表
78	2007	キラップ粒剤のウサギにおける皮膚刺激性試験 GLP、未公表
79	2007	キラップ粒剤のモルモットにおける皮膚感作性試験 GLP、未公表
80	2006	ブラシキラップフロアブルのウサギを用いる皮膚刺激性／腐食性試験 GLP、未公表
81	2007	ブラシキラップフロアブルのモルモットを用いる皮膚感作性試験（Buehler 法） GLP、未公表
82	2005	HM-2050 粉剤 DL のウサギを用いた皮膚刺激性試験 GLP、未公表
83	2005	HM-2050 粉剤 DL のモルモットを用いた皮膚感作性試験(Buehler Test 法) GLP、未公表
84	2008	ウサギにおける HM-0808 粉剤 DL の皮膚刺激性試験 GLP、未公表
85	2008	モルモットにおける HM-0808 粉剤 DL の皮膚感作性試験 GLP、未公表
86	2006	HM-2061 フロアブルのウサギを用いた皮膚刺激性試験 GLP、未公表
87	2006	HM-2061 フロアブルのモルモットを用いた皮膚感作性試験(Buehler Test 法) GLP、未公表
88	2018	HM-1802 フロアブルのウサギを用いる皮膚刺激性試験 GLP、未公表
89	2018	HM-1802 フロアブルのモルモットを用いる皮膚感作性試験(Buehler 法) GLP、未公表
90	2021	Acute Skin Irritation/Corrosion Study of OAT-0912 FL in New Zealand White Rabbits GLP、未公表
91	2022	Skin Sensitization Study of OAT-0912 FL in Guinea Pigs (Buehler Test) GLP、未公表
92	2021	Acute Skin Irritation/Corrosion Study of OAT-0912 DL in New Zealand White Rabbits GLP、未公表
93	2021	Skin Sensitization Study of OAT-0912 DL in Hartley Guinea Pigs (Buehler Test) GLP、未公表
94	2022	Acute Skin Irritation/Corrosion Study of OAT-0912 GR in New Zealand White Rabbits GLP、未公表
95	2022	Skin Sensitization Study of OAT-0912 GR in Hartley Guinea Pigs (Buehler Test) GLP、未公表
96	2023	試験成績の概要及び考察 エチプロール 未公表

資料 番号	報告年	表題、出典（試験施設以外の場合） GLP 適合状況（必要な場合）、公表の有無
97	2023	ハタガシラフロアブル 有効成分（殺虫剤）の試験成績の概要及び考察 未公表
98	2023	試験成績の概要及び考察 キラップフロアブル 未公表
99	2023	ハタガシラフロアブル 製剤 FL 試験成績の概要及び考察 未公表

別添 1：適用病害虫雑草等の範囲及び使用方法（エチプロール）

目 次

1. 登録番号 21470：キラップ粉剤D L 登録番号 21686：ホクコーキラップ粉剤D L (エチプロール 0.50 %粉剤)	3
2. 登録番号 21471：キラップフロアブル 登録番号 21684：ホクコーキラップフロアブル (エチプロール 10.0 %水和剤)	4
3. 登録番号 21855：ホクコーラブサイドキラップ粉剤D L (エチプロール 0.50 %・フサライド 2.5 %粉剤)	5
4. 登録番号 21889：ブラシンキラップ粉剤D L 登録番号 22964：ホクコーブラシンキラップ粉剤D L (エチプロール 0.50 %・フェリムゾン 2.0 %・フサライド 1.5 %粉剤)	5
5. 登録番号 22078：イモチエースキラップ粒剤 (エチプロール 2.0 %・メトミノストロビン 4.0 %粒剤)	5
6. 登録番号 22079：キラップ粒剤 (エチプロール 2.0%粒剤)	6
7. 登録番号 22564：フジワンラップ粒剤 (エチプロール 1.5 %・イソプロチオラン 12.0 %粒剤)	6
8. 登録番号 22887：ダブルカットK粉剤D L (エチプロール 0.50 %・カスガマイシン 0.11 %・トリシクラゾール 0.50%粉剤)	6
9. 登録番号 22920：ダブルカットKフロアブル (エチプロール 5.0 %・カスガマイシン 1.37 %・トリシクラゾール 8.0%水和剤)	7
1 0. 登録番号 22927：ブラシンキラップフロアブル 登録番号 22963：ホクコーブラシンキラップフロアブル (エチプロール 5.0 %・フェリムゾン 15.0 %・フサライド 15.0 %水和剤)	7
1 1. 登録番号 23386：ワイドパンチ豆つぶ (エチプロール 24.0 %・メトミノストロビン 48.0 %剤)	8
1 2. 登録番号 23410：トライK粉剤D L 登録番号 23411：クミアイトライK粉剤D L (エチプロール 0.50 %・テブフロキン 1.0 %粉剤)	8
1 3. 登録番号 23497：ホクコーラブサイドキラップフロアブル (エチプロール 2.5 %・フサライド 12.0 %水和剤)	8
1 4. 登録番号 23906：トライKフロアブル	

登録番号 23907 : トライトラムフロアブル (エチプロール 5.0 %・テブフロキン 15.0 %水和剤)	9
1 5. 登録番号 24521 : ホクコーラブサイドK 2フロアブル (エチプロール 8.8 %・フサライド 17.5 %水和剤)	9
1 6. 登録番号 — : アミスタッドフロアブル及びジェイサクセスフロアブル (エチプロール 10.0 %水和剤)	10
1 7. 登録番号 — : アミスタッドDL粉剤及びジェイサクセスDL粉剤 (エチプロール 0.50 %粉剤)	11
1 8. 登録番号 — : アミスタッド粒剤及びジェイサクセス粒剤 (エチプロール 2.0%粒剤)	11

※1 6～1 8は新規登録申請中

1. 登録番号 21470 : キラップ粉剤DL、
登録番号 21686 : ホクコーキラップ粉剤DL
(エチプロール 0.50 %粉剤)

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	エチプロールを含む農薬の総使用回数
稲	ウンカ類 カメムシ類 イネトヨイムシ イナゴ類	3~4 kg/10 a	収穫 14日前 まで	2回 以内	散布	2回以内(は種時(直播) 又は移植時までの処理は1回以内)
だいず	カメムシ類	3 kg/10 a	収穫 7日前 まで			2回以内

2. 登録番号 21471：キラップフロアブル

登録番号 21684：ホクコーキラップフロアブル

(エチプロール 10.0 %水和剤)

作物名	適用病害虫名	希釈 倍数	使用液量	使用 時期	本剤の 使用 回数	使用 方法	エチプロールを 含む農薬の 総使用回数
稲 (箱育苗)	イネノメイシ	100～ 200倍	育苗箱 (30×60×3 cm、使 用土壌約5 L) 1箱当たり0.5 L	移植3日 前～移植 当日	1回	灌注	2回以内(移植時 までの処理は 1回以内)
稲	ウカ類 カメシ類 イネノメイシ	500倍	25 L/10 a	収穫 14日前 まで	2回 以内	散布	2回以内(は種時 (直播)又は 移植時までの処 理は1回以内)
	イコノ類 イネノメイシ	2000倍	60～200 L/10 a				
	ウカ類 カメシ類	1000～ 2000倍	0.8 L/10 a			空中散布	
		8～16 倍				無人ヘリコプター による散布	
	イネノメイシ	16倍					
	だいず	カメシ類	2000倍	100～300 L/10 a		収穫 7日前 まで	散布
えだまめ							
かんきつ	チャノキイロアザミウマ アブラムシ類	1000～ 2000倍	200～700 L/10 a	収穫 21日前 まで			
	カサネ	2000倍					
りんご	アブラムシ類	1000～ 4000倍		収穫 14日前 まで	2回以内		
	モモンカ キンモノカ キンモノモカ リカ	1000～ 2000倍					
	カメシ類	2000倍		収穫 7日前 まで			
かき	カメシ類 アザミウマ類						
マンゴー	チャノキイロアザミウマ						
茶	チャノキイロアザミウマ ツマグロオカスカ チャノホカ		200～400 L/10 a	摘採 7日前 まで	1回		1回

3. 登録番号 21855 : ホクコーラブサイドキラップ粉剤DL

(エチプロール 0.50 %・フサライド 2.5 %粉剤)

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	エチプロールを含む農薬の総使用回数	フサライドを含む農薬の総使用回数
稲	いもち病 ウンカ類 カメシ類	3~4 kg/10 a	収穫14日前まで	2回以内	散布	2回以内(は種時(直播)又は移植時までの処理は1回以内)	3回以内

4. 登録番号 21889 : ブラシンキラップ粉剤DL

登録番号 22964 : ホクコーブラシンキラップ粉剤DL

(エチプロール 0.50 %・フェリムゾン 2.0 %・フサライド 1.5 %粉剤)

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	エチプロールを含む農薬の総使用回数	フェリムゾンを 含む農薬の 総使用回数	フサライド含 む農薬の総 使用回数
稲	いもち病 ごま葉枯病 穂枯れ(ごま葉枯病菌) カメシ類 ウンカ類	3~4 kg/10 a	収穫 14 日前 まで	2 回 以内	散布	2 回以内(は種時(直播)又は移植時までの処理は1回以内)	2 回 以内	3 回 以内

5. 登録番号 22078 : イモチエースキラップ粒剤

(エチプロール 2.0 %・メトミノストロビン 4.0 %粒剤)

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	エチプロールを含む農薬の総使用回数	メトミノストロビンを 含む農薬の 総使用回数
稲	いもち病 穂枯れ(ごま葉枯病菌) 紋枯病 ウンカ類 カメシ類 変色米(アルナリア菌) 変色米(カーブラリア菌) 墨黒穂病	3 kg/10 a	収穫 35 日前 まで	1 回	湛水 散布	2 回以内(は種時(直播)又は移植時までの処理は1回以内)	1 回

6. 登録番号 22079 : キラップ粒剤

(エチプロール 2.0%粒剤)

作物名	適用 病害虫名	使用量	使用時期	本剤の 使用回数	使用 方法	エチプロールを含む農薬の 総使用回数
稲	ウカ類 カメシ類	3 kg/10 a	収穫14日前 まで	2回以内	湛水 散布	2回以内(移植時(直播)又は移植 時までの処理は1回以内)

7. 登録番号 22564 : フジワンラップ粒剤

(エチプロール 1.5 %・イソプロチオラン 12.0 %粒剤)

作物名	使用 目的	適用 病害虫名	使用量	使用時期	本剤の 使用 回数	使用 方法	エチプロールを 含む農薬の 総使用回数	イソプロチオランを 含む農薬の 総使用回数
稲	-	いもち病	3~4 kg/10 a	葉いもちに対して は初発7~10日前穂 いもちに対しては 出穂10~30日前 但し、収穫30日前 まで	2回 以内	湛水散布 又は 無人航空機 による散布	2回以内(は 種時(直播) 又は移植時 までの処理 は1回以内)	3回以内(移 植前は1回以 内、本田で は2回以内)
		ウカ類 ニカメイチュウ		収穫30日前まで				
		カメシ類	4 kg/10 a	出穂10~30日前 但し、収穫 30 日前 まで				
		稲こうじ病		出穂10~20日前 但し、収穫30日前 まで				
	登熟歩 合向上	-						

8. 登録番号 22887 : ダブルカットK粉剤DL

(エチプロール 0.50 %・カスガマイシン 0.11 %・トリシクラゾール 0.50%粉剤)

作物名	適用 病害虫名	使用量	使用 時期	本剤の 使用 回数	使用 方法	エチプロールを含む 農薬の 総使用回数	カスガマイシンを含む 農薬の総使用回数	トリシクラゾールを含む 農薬の総使用回数
稲	いもち病 カメシ類 ウカ類	3~4 kg/10 a	穂揃期 まで	2回 以内	散布	2回以内(は種時 (直播)又は移植 時までの処理は 1回以内)	4回以内(種子浸漬 は1回以内、育苗 箱への処理は1回 以内、本田では 2回以内)	4回以内(育苗箱への 処理は1回以内、 本田では3回以内)

9. 登録番号 22920 : ダブルカットKフロアブル

(エチプロール 5.0 %・カスガマイシン 1.37 %・トリシクラゾール 8.0%水和剤)

作物名	適用 病害虫名	希釈 倍数	使用 液量	使用 時期	本剤の 使用 回数	使用 方法	エチプロールを 含む農薬の総 使用回数	カスガマイシンを 含む農薬の 総使用回数	トリシクラゾールを 含む農薬の 総使用回数
稲	ウカ類 いもち病 カメシ類	1000 倍	60~200 L/10 a	穂揃期 まで	2回 以内	散布	2回以内(は 種時(直播) 又は移植時 までの処理 は1回以内)	4回以内 (種子浸漬 は1回以 内、育苗箱 への処理 は1回 以内、本田 では2回 以内)	4回以内(育 苗箱への処 理は1回以 内、本田で は3回以内)
	いもち病 カメシ類	300 倍	25 L/10 a			無人航空 機による 散布			
		8倍	800 mL/10 a			空中散布			

10. 登録番号 22927 : ブラシキラップフロアブル

登録番号 22963 : ホクコーブラシキラップフロアブル

(エチプロール 5.0 %・フェリムゾン 15.0 %・フサライド 15.0 %水和剤)

作物名	適用 病害虫名	希釈 倍数	使用 液量	使用 時期	本剤の 使用 回数	使用 方法	エチプロールを 含む農薬の 総使用回数	フェリムゾン を含む 農薬の 総使用 回数	フサライド [®] を含む 農薬の 総使用 回数
稲	いもち病 カメシ類	300 倍	25 L/10 a	収穫14 日前 まで	2回 以内	散布	2回以内(は 種時(直播) 又は移植時 までの処理 は1回以内)	2回以内	3回以内
	いもち病 カメシ類 ウンカ類	1000 倍	60~150 L/10 a			無人ヘリコ プターに よる散布			
		8倍	800 mL/10 a						

1 1. 登録番号 23386 : ワイドパンチ豆つぶ

(エチプロール 24.0 %・メトミノストロビン 48.0 %剤)

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	エチプロールを含む農薬の総使用回数	メトミノストロビンを含む農薬の総使用回数
稲	いもち病 紋枯病 穂枯れ(ごま葉枯病菌) 墨黒穂病 稲こうじ病 カメシ類 ウカ類	250 g/10 a	収穫 35 日前 まで	1 回	散布	2 回以内(は種時(直播) 又は移植時までの処理 は 1 回以内)	1 回

1 2. 登録番号 23410 : トライ K 粉剤 D L

登録番号 23411 : クミアイトライ K 粉剤 D L

(エチプロール 0.50 %・テブフロキン 1.0 %粉剤)

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	エチプロールを含む農薬の総使用回数	テブフロキンを含む農薬の総使用回数
稲	いもち病 ウカ類 カメシ類	3~4 kg/10 a	収穫 14 日 前まで	2 回 以内	散布	2 回以内(は種時(直播) 又は移植時までの処理は 1 回以内)	2 回以内

1 3. 登録番号 23497 : ホクコーラブサイドキラップフロアブル

(エチプロール 2.5 %・フサライド 12.0 %水和剤)

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	エチプロールを含む農薬の総使用回数	フサライドを含む農薬の総使用回数
稲	ウカ類	500 倍	60~200 L/10 a	収穫 14 日前 まで	2 回 以内	散布	2 回以内(は種時 (直播)又は移植 時までの処理は 1 回以内)	3 回以内
	いもち病 カメシ類	150 倍	25L /10 a					
		4 倍	0.8L /10a			無人ヘリコプター による散布		

1 4. 登録番号 23906 : トライ Kフロアブル

登録番号 23907 : トライトラムフロアブル

(エチプロール 5.0 %・テブフロキン 15.0 %水和剤)

作物名	適用 病害虫名	希釈 倍数	使用 液量	使用 時期	本剤の 使用 回数	使用方法	エチプロールを含む 農薬の総使用 回数	テブフロキンを 含む農薬の総使用 回数
稲	いもち病 稲こうじ病 カメシ類 ウカ類	1000 倍	60~150 L/10 a	収穫 14 日前 まで	2 回 以内	散布	2 回以内(は種時 (直播)又は移植時 までの処理は 1 回以内)	2 回以内
		250 倍	25 L/10 a			無人航空機 による散布		
		8 倍	0.8 L/10 a					

1 5. 登録番号 24521 : ホクコーラブサイド K 2フロアブル

(エチプロール 8.8 %・フサライド 17.5 %水和剤)

作物名	適用 病害虫名	希釈 倍数	使用 液量	使用 時期	本剤の 使用 回数	使用方法	エチプロールを含む農 薬の総使用回数	フサライドを 含む農薬の 総使用回数
稲	いもち病 カメシ類	1000 倍	60~150 L/10 a	収穫 14 日前 まで	2 回 以内	散布	2 回以内(は種時 (直播)又は移植時 までの処理は 1 回以内)	3 回以内
		300 倍	25 L/10 a			無人航空機 による散布		
		8 倍	0.8 L/10 a			空中散布		
		30 倍	3L/10 a					

16. 登録番号 — : アミスタッドフロアブル及びジェイサクセスフロアブル
(エチプロール 10.0 %水和剤)

作物名	適用病害虫名	希釈 倍数	使用液量	使用 時期	本剤の 使用 回数	使用 方法	エチプロールを 含む農薬の 総使用回数		
稲 (箱育苗)	イネノメイシ	100~ 200倍	育苗箱 (30×60×3 cm、 使用土壌約5 L) 1箱当り0.5 L	移植3日前 ~移植 当日	1回	灌注	2回以内(移植時 までの処理は 1回以内)		
稲	ウカ類 カメシ類 イネノメイシ	500倍	25 L/10 a	収穫 14日前 まで	2回 以内	散布	2回以内(は種時 (直播)又は 移植時までの処 理は1回以内)		
	イコノ類 イネノメイシ	2000倍	60~200 L/10 a						
	ウカ類 カメシ類	1000~ 2000倍							
だいず	カメシ類	2000倍	100~300 L/10 a	収穫 7日前 まで				2回以内	
えだまめ				収穫 21日前 まで					
かんきつ	チャノキイロアザミウマ アブラムシ類	1000~ 2000倍	200~700 L/10 a	収穫 21日前 まで					
	カネタタ	2000倍		収穫 14日前 まで					
りんご	アブラムシ類	1000~ 4000倍		2000倍					収穫 14日前 まで
	モモンカガ	1000~ 2000倍							収穫 7日前 まで
	カメシ類								
かき	カメシ類 アザミウマ類			収穫 7日前 まで					
茶	チャノキイロアザミウマ ツマクローアカスミカメ チャノボソガ	2000倍	200~400 L/10 a	摘採 7日前 まで	1回	1回			
ねぎ	ネギアザミウマ	1000~ 2000倍	100~300 L/10 a	収穫 3日前 まで		3回以内(植付時 の処理は1回以 内、散布は2回以 内)			

17. 登録番号 — : アミスタッドDL粉剤及びジェイサクセスDL粉剤
(エチプロール 0.50 %粉剤)

作物名	適用病虫害名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	エチプロールを含む農薬の総使用回数
稲	ウンカ類 カメシ類 イナゴ類	3~4 kg/10 a	収穫 14日前 まで	2回 以内	散布	2回以内(は種時(直播)又は移植時までの処理は1回以内)

18. 登録番号 — : アミスタッド粒剤及びジェイサクセス粒剤
(エチプロール 2.0%粒剤)

作物名	適用病虫害名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	エチプロールを含む農薬の総使用回数
稲	ウンカ類 カメシ類	3 kg/10 a	収穫14日前 まで	2回以内	湛水 散布	2回以内 (は種時(直播)又は移植時までの処理は1回以内)
ねぎ	ネギアザミウマ	3~6 kg/10 a	植付時	1回	植溝処理 土壌混和	3回以内(植付時の処理は1回以内、散布は2回以内)

別添２：暴露量の推計（エチプロールを有効成分として含む製剤）

目次	頁
1. 登録番号21470：キラップ粉剤D L、 登録番号21686：ホクコーキラップ粉剤D L (エチプロール0.50%粉剤)	2
2. 登録番号21471：キラップフロアブル、 登録番号21684：ホクコーキラップフロアブル (エチプロール10.0%水和剤)	3
3. 登録番号21855：ホクコーラブサイドキラップ粉剤D L (エチプロール0.50%・フサライド2.5%粉剤)	6
4. 登録番号21889：ブラシンキラップ粉剤D L、 登録番号22964：ホクコーブラシンキラップ粉剤D L (エチプロール0.50%・フェリムゾン2.0%・フサライド1.5%粉剤)	7
5. 登録番号22078：イモチエースキラップ粒剤 (エチプロール2.0%・メトミノストロビン4.0%粒剤)	8
6. 登録番号22079：キラップ粒剤 (エチプロール2.0%粒剤)	9
7. 登録番号22564：フジワンラップ粒剤 (エチプロール1.5%・イソプロチオラン12.0%粒剤)	10
8. 登録番号22887：ダブルカットK粉剤D L (エチプロール0.50%・カスガマイシン0.11%・トリシクラゾール0.50%粉剤)	11
9. 登録番号22920：ダブルカットKフロアブル (エチプロール5.0%・カスガマイシン1.37%・トリシクラゾール8.0%水和剤)	12
10. 登録番号22927：ブラシンキラップフロアブル、 登録番号22963：ホクコーブラシンキラップフロアブル (エチプロール5.0%・フェリムゾン15.0%・フサライド15.0%水和剤)	13
11. 登録番号23386：ワイドパンチ豆つぶ (エチプロール24.0%・メトミノストロビン48.0%剤)	14
12. 登録番号23410：トライK粉剤D L、 登録番号23411：クミアイトライK粉剤D L (エチプロール0.50%・テブフロキン1.0%粉剤)	15
13. 登録番号23497：ホクコーラブサイドキラップフロアブル (エチプロール2.5%・フサライド12.0%水和剤)	16
14. 登録番号23906：トライKフロアブル 登録番号23907：トライトラムフロアブル (エチプロール5.0%・テブフロキン15.0%水和剤)	17
15. 登録番号24521：ホクコーラブサイドK 2フロアブル (エチプロール8.8%・フサライド17.5%水和剤)	18
16. 登録番号ー：アミスタッドフロアブル及びジェイサクセスフロアブル (エチプロール10.0%水和剤)	19
17. 登録番号ー：アミスタッドD L粉剤及びジェイサクセスD L粉剤 (エチプロール0.50%粉剤)	22
18. 登録番号ー：アミスタッド粒剤及びジェイサクセス粒剤 (エチプロール2.0%粒剤)	23

*：本資料は、製剤のハザード区分に応じた防護装備も考慮して作成した。

1. 登録番号21470：キラップ粉剤DL、登録番号21686：ホクコーキラップ粉剤DL（エチプロール0.50%粉剤）

① 製剤情報	登録番号	21470
	種類・名称	エチプロール粉剤(キラップ粉剤DL)
② 評価対象有効成分	エチプロール	
③-1 AOEL	0.005 (mg/kg体重/日)	
③-2 AAOEL	0.022 (mg/kg体重)	
④ 有効成分濃度・含有率	0.5 %	
⑤ 製剤の形態(製剤/散布液)	製剤: 固体／散布時: 固体	
⑥ 調製時の予測式	固形剤（粉剤、微粒剤、粒剤等）	

【補助1】農業使用者暴露量の試験成績について
デフォルト値を使用

【補助2】面積について
デフォルト値を使用

⑭ 経皮吸収率	希釈倍数（倍）	経皮吸収率（%）
製剤	1	6.3
希釈液		

使用 番号	⑦作物名	使用方法等 (投下量／使用時期／使用方法／評価に用いた使用回数)	希釈 倍数	散布時の予測式	防護装備あり								備考	
					調製時		散布時			反復	急性	%AOEL 1)		%AAOEL 2)
					マスク	手袋	防護服	マスク	手袋	($\mu\text{g ai/kg}$ 体重/日)	($\mu\text{g ai/kg}$ 体重)			
1	稲	4 kg/10a／収穫14日前まで／散布／2回	1	固形剤（粉剤）_水 稲（手散布）			長ズボン・ 長袖の作業 衣		不浸透性手 袋	2.4	15.4	47.1	69.8	
2	だいず	3 kg/10a／収穫7日前まで／散布／2回	1	固形剤（粉剤）_水 稲（手散布）			長ズボン・ 長袖の作業 衣		不浸透性手 袋	1.2	1.7	23	7.9	

¹⁾: AOEL占有率＝反復暴露量($\mu\text{g ai/kg}$ 体重/日)÷1000($\mu\text{g/mg}$)÷AOEL(mg/kg体重/日)×100

²⁾: AAOEL占有率＝急性暴露量($\mu\text{g ai/kg}$ 体重)÷1000($\mu\text{g/mg}$)÷AAOEL(mg/kg体重)×100

なお、体重当たり暴露量の計算には国民の平均体重55.1 kgを用いている。

2. 登録番号21471：キラップフロアブル、登録番号21684：ホクコーキラップフロアブル（エチプロール10.0%水和剤）

① 製剤情報	登録番号	21471
	種類・名称	エチプロール水和剤(キラップフロアブル)
② 評価対象有効成分	エチプロール	
③-1 AOEL	0.005 (mg/kg体重/日)	
③-2 AAOEL	0.022 (mg/kg体重)	
④ 有効成分濃度・含有率	10 %	
⑤ 製剤の形態(製剤/散布液)	製剤: 液体／散布時: 液体	
⑥ 調製時の予測式	乳剤等	

【補助1】農業使用者暴露量の試験成績について
デフォルト値を使用

【補助2】面積について
デフォルト値を使用

⑭ 経皮吸収率	希釈倍数（倍）	経皮吸収率（％）
製剤	1	0.04
希釈液	8	6.3
	16	6.3
	100	6.3
	500	8.6
	1000	8.6
	2000	11

使用 番号	⑦作物名	使用方法等 (投下量／使用時期／使用方法／評価に用いた使用回数)	希釈 倍数	散布時の予測式	防護装備あり								備考	
					調製時		散布時			反復	急性	%AOEL 1)		%AAOEL 2)
					マスク	手袋	防護服	マスク	手袋	(μg ai/kg 体重/日)	(μg ai/kg 体重)			
1	稲（育苗箱）	100 倍, 0.5 L/箱／移植3日前～移植当日／灌注／2 回	100	液剤_水稻_育苗箱 (育苗箱)			長ズボン・ 長袖の作業 衣			0.6	1	12	4.7	
2	稲	500 倍, 25 L/10a／収穫14日前まで／散布／2 回	500	液剤_水稻（手散 布）			長ズボン・ 長袖の作業 衣			0.3	2.1	6.5	9.7	
2*	稲	500 倍, 25 L/10a／収穫14日前まで／散布／2 回	500	液剤_水稻（機械散 布）			長ズボン・ 長袖の作業 衣			0.1	0.4	1.2	1.7	
3	稲	1000 倍, 200 L/10a／収穫14日前まで／散布／2 回	1000	液剤_水稻（手散 布）			長ズボン・ 長袖の作業 衣			1.3	8.5	26	38.6	
3*	稲	1000 倍, 200 L/10a／収穫14日前まで／散布／2 回	1000	液剤_水稻（機械散 布）			長ズボン・ 長袖の作業 衣			0.2	1.5	4.7	6.9	
4	稲	2000 倍, 200 L/10a／収穫14日前まで／散布／2 回	2000	液剤_水稻（手散 布）			長ズボン・ 長袖の作業 衣			0.8	5.4	16.4	24.3	
4*	稲	2000 倍, 200 L/10a／収穫14日前まで／散布／2 回	2000	液剤_水稻（機械散 布）			長ズボン・ 長袖の作業 衣			0.1	0.9	2.7	4	
5	稲	8 倍, 0.8 L/10a／収穫14日前まで／空中散布／2 回	8	散布による暴露な し（手散布）			長ズボン・ 長袖の作業 衣			0	0.2	0.6	0.9	
6	稲	8 倍, 0.8 L/10a／収穫14日前まで／無人ヘリコプターによる散布／ 2 回	8	液剤_無人航空機 (-)			長ズボン・ 長袖の作業 衣			0.1	0.4	1.3	1.9	

7	稲	16 倍, 0.8 L/10a／収穫14日前まで／無人ヘリコプターによる散布／ 2 回	16	液剤_無人航空機 (-)			長ズボン・ 長袖の作業 衣			0	0.2	0.6	0.9	
8	だいず	16 倍, 0.8 L/10a／収穫7日前まで／無人ヘリコプターによる散布／ 2 回	16	液剤_無人航空機 (-)			長ズボン・ 長袖の作業 衣			0	0	0.1	0.1	
9	だいず	2000 倍, 300 L/10a／収穫7日前まで／散布／2 回	2000	液剤_野菜（平面） （手散布）			長ズボン・ 長袖の作業 衣			0.7	3	14.9	13.8	
9*	だいず	2000 倍, 300 L/10a／収穫7日前まで／散布／2 回	2000	液剤_野菜（平面） （機械散布）			長ズボン・ 長袖の作業 衣			0.3	0.7	6.4	3	
10	えだまめ	2000 倍, 300 L/10a／収穫7日前まで／散布／2 回	2000	液剤_野菜（平面） （手散布）			長ズボン・ 長袖の作業 衣			0.2	3	3.8	13.8	
10*	えだまめ	2000 倍, 300 L/10a／収穫7日前まで／散布／2 回	2000	液剤_野菜（平面） （機械散布）			長ズボン・ 長袖の作業 衣			0.1	0.7	2.9	3	
11	かんきつ	1000 倍, 700 L/10a／収穫21日前まで／散布／2 回	1000	液剤_果樹（立体） （手散布）			保護面＋ フード＋不 浸透性防除 衣		不浸透性手 袋	2.1	21.5	42.9	97.6	
11*	かんきつ	1000 倍, 700 L/10a／収穫21日前まで／散布／2 回	1000	液剤_果樹（立体） （機械散布）			フード＋不 浸透性防除 衣		不浸透性手 袋	1.9	14.2	38	64.7	
12	かんきつ	2000 倍, 700 L/10a／収穫21日前まで／散布／2 回	2000	液剤_果樹（立体） （手散布）			保護面＋ フード＋不 浸透性防除 衣		不浸透性手 袋	1.3	13.3	26.6	60.4	
12*	かんきつ	2000 倍, 700 L/10a／収穫21日前まで／散布／2 回	2000	液剤_果樹（立体） （機械散布）			フード＋不 浸透性防除 衣		不浸透性手 袋	1.2	9	24	40.8	
13	りんご	1000 倍, 700 L/10a／収穫14日前まで／散布／2 回	1000	液剤_果樹（立体） （手散布）			保護面＋ フード＋不 浸透性防除 衣		不浸透性手 袋	2.8	21.5	56.1	97.6	
13*	りんご	1000 倍, 700 L/10a／収穫14日前まで／散布／2 回	1000	液剤_果樹（立体） （機械散布）			フード＋不 浸透性防除 衣		不浸透性手 袋	2.2	14.2	43.7	64.7	
14	りんご	2000 倍, 700 L/10a／収穫14日前まで／散布／2 回	2000	液剤_果樹（立体） （手散布）			保護面＋ フード＋不 浸透性防除 衣		不浸透性手 袋	1.7	13.3	34.7	60.4	
14*	りんご	2000 倍, 700 L/10a／収穫14日前まで／散布／2 回	2000	液剤_果樹（立体） （機械散布）			フード＋不 浸透性防除 衣		不浸透性手 袋	1.4	9	27.6	40.8	
15	かき	2000 倍, 700 L/10a／収穫7日前まで／散布／2 回	2000	液剤_果樹（立体） （手散布）			フード＋不 浸透性防除 衣		不浸透性手 袋	0.7	19.3	13.3	87.5	

15*	かき	2000 倍, 700 L/10a／収穫7日前まで／散布／2 回	2000	液剤_果樹（立体） （機械散布）			長ズボン・ 長袖の作業 衣			1	21.1	20.3	96	
16	マンゴー	2000 倍, 700 L/10a／収穫7日前まで／散布／2 回	2000	液剤_果樹（立体） （手散布）			フード＋不 浸透性防除 衣	不浸透性手 袋		0.7	19.3	13.3	87.5	
16*	マンゴー	2000 倍, 700 L/10a／収穫7日前まで／散布／2 回	2000	液剤_果樹（立体） （機械散布）			長ズボン・ 長袖の作業 衣			1	21.1	20.3	96	
17	茶	2000 倍, 400 L/10a／摘採7日前まで／散布／1 回	2000	液剤_野菜（平面） （手散布）			長ズボン・ 長袖の作業 衣			0.2	4.1	3.5	18.5	
17*	茶	2000 倍, 400 L/10a／摘採7日前まで／散布／1 回	2000	液剤_野菜（平面） （機械散布）			長ズボン・ 長袖の作業 衣			0.1	0.9	1.2	4	

¹⁾: AOEL占有率＝反復暴露量(μg ai/kg体重/日)÷1000(μg/mg)÷AOEL(mg/kg体重/日)×100

²⁾: AAOEL占有率＝急性暴露量(μg ai/kg体重)÷1000(μg/mg)÷AAOEL(mg/kg体重)×100

なお、体重当たり暴露量の計算には国民の平均体重55.1 kgを用いている。

3. 登録番号21855：ホクコーラブサイドキラップ粉剤DL（エチプロール0.50%・フサライド2.5%粉剤）

① 製剤情報	登録番号	21855
	種類・名称	エチプロール・フサライド粉剤 (ホクコーラブサイドキラップ粉剤DL)
② 評価対象有効成分	エチプロール	
③-1 AOEL	0.005 (mg/kg体重/日)	
③-2 AAOEL	0.022 (mg/kg体重)	
④ 有効成分濃度・含有率	0.5 %	
⑤ 製剤の形態 (製剤/散布液)	製剤: 固体／散布時: 固体	
⑥ 調製時の予測式	固形剤 (粉剤、微粒剤、粒剤等)	

【補助1】農業使用者暴露量の試験成績について
デフォルト値を使用

【補助2】面積について
デフォルト値を使用

⑭ 経皮吸収率	希釈倍数 (倍)	経皮吸収率 (%)
製剤	1	6.3
希釈液		

使用 番号	⑦作物名	使用方法等 (投下量／使用時期／使用方法／評価に用いた使用回数)	希釈 倍数	散布時の予測式	防護装備あり								備考	
					調製時		散布時			反復	急性	%AOEL 1)		%AAOEL 2)
					マスク	手袋	防護服	マスク	手袋	(μg ai/kg 体重/日)	(μg ai/kg 体重)			
1	稲	4 kg/10a／収穫14日前まで／散布／2回	1	固形剤（粉剤）_水 稲（手散布）		不浸透性手 袋			不浸透性手 袋	3	19.6	60	88.9	

¹⁾: AOEL占有率＝反復暴露量(μg ai/kg体重/日)÷1000(μg/mg)÷AOEL(mg/kg体重/日)×100

²⁾: AAOEL占有率＝急性暴露量(μg ai/kg体重)÷1000(μg/mg)÷AAOEL(mg/kg体重)×100

なお、体重当たり暴露量の計算には国民の平均体重55.1 kgを用いている。

4. 登録番号21889：ブラシンキラップ粉剤DL、登録番号22964：ホクコーブラシンキラップ粉剤DL（エチプロール0.50%・フェリムゾン2.0%・フサライド1.5%粉剤）

① 製剤情報	登録番号	21889
	種類・名称	エチプロール・フェリムゾン・フサライド粉剤 (ブラシ ンキラップ粉剤DL)
② 評価対象有効成分	エチプロール	
③-1 AOEL	0.005 (mg/kg体重/日)	
③-2 AAOEL	0.022 (mg/kg体重)	
④ 有効成分濃度・含有率	0.5 %	
⑤ 製剤の形態 (製剤/散布液)	製剤: 固体／散布時: 固体	
⑥ 調製時の予測式	固形剤 (粉剤、微粒剤、粒剤等)	

【補助1】農薬使用者暴露量の試験成績について
デフォルト値を使用

【補助2】面積について
デフォルト値を使用

⑭ 経皮吸収率	希釈倍数 (倍)	経皮吸収率 (%)
製剤	1	10
希釈液		

使用 番号	⑦作物名	使用方法等 (投下量／使用時期／使用方法／評価に用いた使用回数)	希釈 倍数	散布時の予測式	防護装備あり								備考	
					調製時		散布時			反復	急性	%AOEL 1)		%AAOEL 2)
					マスク	手袋	防護服	マスク	手袋	(μg ai/kg 体重/日)	(μg ai/kg 体重)			
1	稲	4 kg/10a／収穫14日前まで／散布／2回	1	固形剤（粉剤）_水 稲（手散布）			長ズボン・ 長袖の作業 衣		不浸透性手 袋	3.4	22	67.4	99.9	

¹⁾: AOEL占有率＝反復暴露量(μg ai/kg体重/日)÷1000(μg/mg)÷AOEL(mg/kg体重/日)×100

²⁾: AAOEL占有率＝急性暴露量(μg ai/kg体重)÷1000(μg/mg)÷AAOEL(mg/kg体重)×100

なお、体重当たり暴露量の計算には国民の平均体重55.1 kgを用いている。

5. 登録番号22078：イモチエースキラップ粒剤（エチプロロール2.0%・メトミノストロビン4.0%粒剤）

① 製剤情報	登録番号	22078
	種類・名称	エチプロロール・メトミノストロビン粒剤 (イモチエースキラップ粒剤)
② 評価対象有効成分	エチプロロール	
③-1 AOEL	0.005 (mg/kg体重/日)	
③-2 AAOEL	0.022 (mg/kg体重)	
④ 有効成分濃度・含有率	2 %	
⑤ 製剤の形態 (製剤/散布液)	製剤: 固体／散布時: 固体	
⑥ 調製時の予測式	固形剤 (粉剤、微粒剤、粒剤等)	

【補助1】農薬使用者暴露量の試験成績について
デフォルト値を使用

【補助2】面積について
デフォルト値を使用

⑭ 経皮吸収率	希釈倍数 (倍)	経皮吸収率 (%)
製剤	1	6.3
希釈液		

使用 番号	⑦作物名	使用方法等 (投下量／使用時期／使用方法／評価に用いた使用回数)	希釈 倍数	散布時の予測式	防護装備あり								備考	
					調製時		散布時			反復	急性	%AOEL 1)		%AAOEL 2)
					マスク	手袋	防護服	マスク	手袋	($\mu\text{g ai/kg}$ 体重/日)	($\mu\text{g ai/kg}$ 体重)			
1	稲	3 kg/10a／収穫35日前まで／湛水散布／2回	1	固形剤（粒剤） 水稲（手散布）		不浸透性手袋	長ズボン・ 長袖の作業衣			0.7	4.3	13.2	19.5	

¹⁾: AOEL占有率＝反復暴露量($\mu\text{g ai/kg}$ 体重/日)÷1000($\mu\text{g/mg}$)÷AOEL(mg/kg体重/日)×100

²⁾: AAOEL占有率＝急性暴露量($\mu\text{g ai/kg}$ 体重)÷1000($\mu\text{g/mg}$)÷AAOEL(mg/kg体重)×100

なお、体重当たり暴露量の計算には国民の平均体重55.1 kgを用いている。

6. 登録番号22079：キラップ粒剤（エチプロール2.0%粒剤）

① 製剤情報	登録番号	22079
	種類・名称	エチプロール粒剤(キラップ粒剤)
② 評価対象有効成分		エチプロール
③-1 AOEL		0.005 (mg/kg体重/日)
③-2 AAOEL		0.022 (mg/kg体重)
④ 有効成分濃度・含有率		2 %
⑤ 製剤の形態(製剤/散布液)		製剤: 固体／散布時: 固体
⑥ 調製時の予測式		固形剤（粉剤、微粒剤、粒剤等）

【補助1】農薬使用者暴露量の試験成績について
デフォルト値を使用

【補助2】面積について
デフォルト値を使用

⑭ 経皮吸収率	希釈倍数（倍）	経皮吸収率（%）
製剤	1	6.3
希釈液		

使用 番号	⑦作物名	使用方法等 (投下量／使用時期／使用方法／評価に用いた使用回数)	希釈 倍数	散布時の予測式	防護装備あり								備考	
					調製時		散布時			反復	急性	%AOEL 1)		%AAOEL 2)
					マスク	手袋	防護服	マスク	手袋	($\mu\text{g ai/kg}$ 体重/日)	($\mu\text{g ai/kg}$ 体重)			
1	稲	3 kg/10a／収穫14日前まで／湛水散布／2回	1	固形剤（粒剤） 水稲（手散布）		不浸透性手 袋	長ズボン・ 長袖の作業 衣			0.7	4.3	13.2	19.5	

¹⁾: AOEL占有率＝反復暴露量($\mu\text{g ai/kg}$ 体重/日)÷1000($\mu\text{g/mg}$)÷AOEL(mg/kg体重/日)×100

²⁾: AAOEL占有率＝急性暴露量($\mu\text{g ai/kg}$ 体重)÷1000($\mu\text{g/mg}$)÷AAOEL(mg/kg体重)×100

なお、体重当たり暴露量の計算には国民の平均体重55.1 kgを用いている。

7. 登録番号22564：フジワンラップ粒剤（エチプロロール1.5%・イソプロチオラン12.0%粒剤）

① 製剤情報	登録番号	22564
	種類・名称	エチプロロール・イソプロチオラン粒剤 (フジワンラップ粒剤)
② 評価対象有効成分	エチプロロール	
③-1 AOEL	0.005 (mg/kg体重/日)	
③-2 AAOEL	0.022 (mg/kg体重)	
④ 有効成分濃度・含有率	1.5 %	
⑤ 製剤の形態 (製剤/散布液)	製剤: 固体／散布時: 固体	
⑥ 調製時の予測式	固形剤 (粉剤、微粒剤、粒剤等)	

【補助1】農業使用者暴露量の試験成績について
デフォルト値を使用

【補助2】面積について
デフォルト値を使用

⑭ 経皮吸収率	希釈倍数 (倍)	経皮吸収率 (%)
製剤	1	10
希釈液		

使用 番号	⑦作物名	使用方法等 (投下量／使用時期／使用方法／評価に用いた使用回数)	希釈 倍数	散布時の予測式	防護装備あり								備考	
					調製時		散布時			反復	急性	%AOEL 1)		%AAOEL 2)
					マスク	手袋	防護服	マスク	手袋	($\mu\text{g ai/kg}$ 体重/日)	($\mu\text{g ai/kg}$ 体重)			
1	稲	4 kg/10a／葉いもちに対しては初発7～10日前 穂いもちに対しては出穂10～30日前 但し、収穫30日前まで／湛水散布又は無人航空機による散布／2回	1	固形剤（粒剤）_水 稲（手散布）		不浸透性手 袋				1.7	11.3	34.6	51.3	
2	稲	4 kg/10a／収穫30日前まで／湛水散布又は無人航空機による 散布／2回	1	固形剤（粒剤）_水 稲（手散布）		不浸透性手 袋				1.7	11.3	34.6	51.3	
3	稲	4 kg/10a／出穂10～30日前但し、収穫30日前まで／湛水散布 又は無人航空機による散布／2回	1	固形剤（粒剤）_水 稲（手散布）		不浸透性手 袋				1.7	11.3	34.6	51.3	
4	稲	4 kg/10a／出穂10～20日前但し、収穫30日前まで／湛水散布 又は無人航空機による散布／2回	1	固形剤（粒剤）_水 稲（手散布）		不浸透性手 袋				1.7	11.3	34.6	51.3	

¹⁾: AOEL占有率=反復暴露量 ($\mu\text{g ai/kg}$ 体重/日)÷1000 ($\mu\text{g/mg}$)÷AOEL(mg/kg体重/日)×100

²⁾: AAOEL占有率=急性暴露量 ($\mu\text{g ai/kg}$ 体重)÷1000 ($\mu\text{g/mg}$)÷AAOEL(mg/kg体重)×100

なお、体重当たり暴露量の計算には国民の平均体重55.1 kgを用いている。

8. 登録番号22887：ダブルカットK粉剤DL（エチプロール0.50%・カスガマイシン0.11%・トリシクラゾール0.50%粉剤）

① 製剤情報	登録番号	22887
	種類・名称	エチプロール・カスガマイシン・トリシクラゾール粉剤 (ダブルカットK粉剤DL)
② 評価対象有効成分	エチプロール	
③-1 AOEL	0.005 (mg/kg体重/日)	
③-2 AAOEL	0.022 (mg/kg体重)	
④ 有効成分濃度・含有率	0.5 %	
⑤ 製剤の形態(製剤/散布液)	製剤: 固体／散布時: 固体	
⑥ 調製時の予測式	固形剤（粉剤、微粒剤、粒剤等）	

【補助1】農業使用者暴露量の試験成績について
デフォルト値を使用

【補助2】面積について
デフォルト値を使用

⑭ 経皮吸収率	希釈倍数（倍）	経皮吸収率（%）
製剤	1	6.3
希釈液		

使用 番号	⑦作物名	使用方法等 (投下量／使用時期／使用方法／評価に用いた使用回数)	希釈 倍数	散布時の予測式	防護装備あり								備考	
					調製時		散布時			反復	急性	%AOEL 1)		%AAOEL 2)
					マスク	手袋	防護服	マスク	手袋	($\mu\text{g ai/kg}$ 体重/日)	($\mu\text{g ai/kg}$ 体重)			
1	稲	4 kg/10a／穂揃期まで／散布／2回	1	固形剤（粉剤）_水 稲（手散布）		不浸透性手 袋			不浸透性手 袋	3	19.6	60	88.9	

¹⁾: AOEL占有率＝反復暴露量($\mu\text{g ai/kg}$ 体重/日) $\div$ 1000($\mu\text{g/mg}$) $\div$ AOEL(mg/kg 体重/日) $\times$ 100

²⁾: AAOEL占有率＝急性暴露量($\mu\text{g ai/kg}$ 体重) $\div$ 1000($\mu\text{g/mg}$) $\div$ AAOEL(mg/kg 体重) $\times$ 100

なお、体重当たり暴露量の計算には国民の平均体重55.1 kgを用いている。

9. 登録番号22920：ダブルカットKフロアブル（エチプロール5.0%・カスガマイシン1.37%・トリシクラゾール8.0%水和剤）

① 製剤情報	登録番号	22920
	種類・名称	エチプロール・カスガマイシン・トリシクラゾール水和剤 (ダブルカットKフロアブル)
② 評価対象有効成分	エチプロール	
③-1 AOEL	0.005 (mg/kg体重/日)	
③-2 AAOEL	0.022 (mg/kg体重)	
④ 有効成分濃度・含有率	5 %	
⑤ 製剤の形態 (製剤/散布液)	製剤: 液体/散布時: 液体	
⑥ 調製時の予測式	乳剤等	

【補助1】農業使用者暴露量の試験成績について
デフォルト値を使用

【補助2】面積について
デフォルト値を使用

⑭ 経皮吸収率	希釈倍数 (倍)	経皮吸収率 (%)
製剤	1	25
希釈液	8	70
	300	70
	1000	70

使用 番号	⑦作物名	使用方法等 (投下量／使用時期／使用方法／評価に用いた使用回数)	希釈 倍数	散布時の予測式	防護装備あり								備考	
					調製時		散布時			反復	急性	%AOEL 1)		%AAOEL 2)
					マスク	手袋	防護服	マスク	手袋	(μg ai/kg 体重/日)	(μg ai/kg 体重)			
1	稲	1000 倍, 200 L/10a／穂揃期まで／散布／2 回	1000	液剤_水稻（手散布）		不浸透性手袋	不浸透性防除衣	マスク 1	不浸透性手袋	2.8	18.1	55.6	82.4	
1*	稲	1000 倍, 200 L/10a／穂揃期まで／散布／2 回	1000	液剤_水稻（機械散布）		不浸透性手袋	不浸透性防除衣	マスク 1	不浸透性手袋	2.2	14.4	44.3	65.6	
2	稲	300 倍, 25 L/10a／穂揃期まで／散布／2 回	300	液剤_水稻（手散布）		不浸透性手袋	不浸透性防除衣	マスク 1	不浸透性手袋	1.2	7.6	23.2	34.3	
2*	稲	300 倍, 25 L/10a／穂揃期まで／散布／2 回	300	液剤_水稻（機械散布）		不浸透性手袋	不浸透性防除衣	マスク 1	不浸透性手袋	0.9	6	18.4	27.3	
3	稲	8 倍, 0.8 L/10a／穂揃期まで／無人航空機による散布／2 回	8	液剤_無人航空機（-）		不浸透性手袋	不浸透性防除衣	マスク 1	不浸透性手袋	1.1	7	21.4	31.7	
4	稲	8 倍, 0.8 L/10a／穂揃期まで／空中散布／2 回	8	散布による暴露なし（手散布）		不浸透性手袋				1	6.4	19.5	28.9	

¹⁾: AOEL占有率=反復暴露量($\mu\text{g ai/kg}$ 体重/日) $\div$ 1000 ($\mu\text{g/mg}$) $\div$ AOEL(mg/kg 体重/日) $\times$ 100

²⁾: AAOEL占有率=急性暴露量($\mu\text{g ai/kg}$ 体重) $\div$ 1000 ($\mu\text{g/mg}$) $\div$ AAOEL(mg/kg 体重) $\times$ 100

なお、体重当たり暴露量の計算には国民の平均体重55.1 kgを用いている。

1 0. 登録番号22927：ブラシキラップフロアブル、登録番号22963：ホクコーブラシキラップフロアブル（エチプロール5.0%・フェリムゾン15.0%・フサライド15.0%水和剤）

① 製剤情報	登録番号	22927
	種類・名称	エチプロール・フェリムゾン・フサライド水和剤(ブラシキラップフロアブル)
② 評価対象有効成分		エチプロール
③-1 AOEL		0.005 (mg/kg体重/日)
③-2 AAOEL		0.022 (mg/kg体重)
④ 有効成分濃度・含有率		5 %
⑤ 製剤の形態(製剤/散布液)		製剤: 液体/散布時: 液体
⑥ 調製時の予測式		フロアブル剤等

【補助1】農業使用者暴露量の試験成績について
デフォルト値を使用

【補助2】面積について
デフォルト値を使用

⑭ 経皮吸収率	希釈倍数（倍）	経皮吸収率（%）
製剤	1	6.3
希釈液	8	6.3
	300	8.6
	1000	11

使用 番号	⑦作物名	使用方法等 (投下量／使用時期／使用方法／評価に用いた使用回数)	希釈 倍数	散布時の予測式	防護装備あり								備考	
					調製時		散布時			反復	急性	%AOEL 1)		%AAOEL 2)
					マスク	手袋	防護服	マスク	手袋	(μg ai/kg 体重/日)	(μg ai/kg 体重)			
1	稲	300 倍, 25 L/10a／収穫14日前まで／散布／2 回	300	液剤_水稻（手散布）			長ズボン・ 長袖の作業 衣			2.2	14.1	43.2	64	
1*	稲	300 倍, 25 L/10a／収穫14日前まで／散布／2 回	300	液剤_水稻（機械散布）						2	13.2	40.6	60.1	
2	稲	1000 倍, 150 L/10a／収穫14日前まで／散布／2 回	1000	液剤_水稻（手散布）		不浸透性手 袋	長ズボン・ 長袖の作業 衣			0.9	6.1	18.7	27.7	
2*	稲	1000 倍, 150 L/10a／収穫14日前まで／散布／2 回	1000	液剤_水稻（機械散布）		不浸透性手 袋	長ズボン・ 長袖の作業 衣			0.4	2.7	8.4	12.5	
3	稲	8 倍, 0.8 L/10a／収穫14日前まで／無人ヘリコプターによる散布／ 2 回	8	液剤_無人航空機 (-)						2.3	15.2	46.7	69.1	

1): AOEL占有率＝反復暴露量(μg ai/kg体重/日)÷1000(μg/mg)÷AOEL(mg/kg体重/日)×100

2): AAOEL占有率＝急性暴露量(μg ai/kg体重)÷1000(μg/mg)÷AAOEL(mg/kg体重)×100

なお、体重当たり暴露量の計算には国民の平均体重55.1 kgを用いている。

1 1. 登録番号23386：ワイドパンチ豆つぶ（エチプロール24.0%・メトミノストロビン48.0%剤）

① 製剤情報	登録番号	23386
	種類・名称	エチプロール・メトミノストロビン剤(ワイドパンチ豆つぶ)
② 評価対象有効成分	エチプロール	
③-1 AOEL	0.005 (mg/kg体重/日)	
③-2 AAOEL	0.022 (mg/kg体重)	
④ 有効成分濃度・含有率	24 %	
⑤ 製剤の形態(製剤/散布液)	製剤: 固体／散布時: 固体	
⑥ 調製時の予測式	固形剤（粉剤、微粒剤、粒剤等）	

【補助1】農薬使用者暴露量の試験成績について
デフォルト値を使用

【補助2】面積について
デフォルト値を使用

⑭ 経皮吸収率	希釈倍数（倍）	経皮吸収率（%）
製剤	1	10
希釈液		

使用 番号	⑦作物名	使用方法等 (投下量／使用時期／使用方法／評価に用いた使用回数)	希釈 倍数	散布時の予測式	防護装備あり								備考	
					調製時		散布時			反復	急性	%AOEL 1)		%AAOEL 2)
					マスク	手袋	防護服	マスク	手袋	(μg ai/kg 体重/日)	(μg ai/kg 体重)			
1	稲	0.25 kg/10a／収穫35日前まで／散布／2回	1	固形剤（粒剤）_水 稲（手散布）		不浸透性手 袋	長ズボン・ 長袖の作業 衣			0.9	5.6	17.2	25.4	

¹⁾: AOEL占有率＝反復暴露量($\mu\text{g ai/kg}$ 体重/日)÷1000($\mu\text{g/mg}$)÷AOEL(mg/kg体重/日)×100

²⁾: AAOEL占有率＝急性暴露量($\mu\text{g ai/kg}$ 体重)÷1000($\mu\text{g/mg}$)÷AAOEL(mg/kg体重)×100

なお、体重当たり暴露量の計算には国民の平均体重55.1 kgを用いている。

1 2. 登録番号23410：トライK粉剤DL、登録番号23411：クミアイトライK粉剤DL（エチプロール0.50%・テブフロキン1.0%粉剤）

① 製剤情報	登録番号	23410
	種類・名称	エチプロール・テブフロキン粉剤 (トライK粉剤DL)
② 評価対象有効成分		エチプロール
③-1 AOEL		0.005 (mg/kg体重/日)
③-2 AAOEL		0.022 (mg/kg体重)
④ 有効成分濃度・含有率		0.5 %
⑤ 製剤の形態 (製剤/散布液)		製剤: 固体／散布時: 固体
⑥ 調製時の予測式		固形剤 (粉剤、微粒剤、粒剤等)

【補助1】農薬使用者暴露量の試験成績について
デフォルト値を使用

【補助2】面積について
デフォルト値を使用

⑭ 経皮吸収率	希釈倍数 (倍)	経皮吸収率 (%)
製剤	1	10
希釈液		

使用 番号	⑦作物名	使用方法等 (投下量／使用時期／使用方法／評価に用いた使用回数)	希釈 倍数	散布時の予測式	防護装備あり								備考	
					調製時		散布時			反復	急性	%AOEL 1)		%AAOEL 2)
					マスク	手袋	防護服	マスク	手袋	($\mu\text{g ai/kg}$ 体重/日)	($\mu\text{g ai/kg}$ 体重)			
1	稲	4 kg/10a／収穫14日前まで／散布／2回	1	固形剤（粉剤）水 稲（手散布）	マスク 1	不浸透性手 袋	長ズボン・ 長袖の作業 衣	マスク 1	不浸透性手 袋	1.4	9	27.6	40.9	

¹⁾: AOEL占有率=反復暴露量($\mu\text{g ai/kg}$ 体重/日) $\div$ 1000($\mu\text{g/mg}$) $\div$ AOEL(mg/kg体重/日) $\times$ 100

²⁾: AAOEL占有率=急性暴露量($\mu\text{g ai/kg}$ 体重) $\div$ 1000($\mu\text{g/mg}$) $\div$ AAOEL(mg/kg体重) $\times$ 100

なお、体重当たり暴露量の計算には国民の平均体重55.1 kgを用いている。

1 3. 登録番号23497：ホクコーラブサイドキラップフロアブル（エチプロール2.5%・フサライド12.0%水和剤）

① 製剤情報	登録番号	23497
	種類・名称	エチプロール・フサライド水和剤（ホクコーラブサイドキラップフロアブル）
② 評価対象有効成分		エチプロール
③-1 AOEL		0.005 (mg/kg体重/日)
③-2 AAOEL		0.022 (mg/kg体重)
④ 有効成分濃度・含有率		2.5 %
⑤ 製剤の形態（製剤/散布液）		製剤: 液体／散布時: 液体
⑥ 調製時の予測式		乳剤等

【補助1】農薬使用者暴露量の試験成績について
デフォルト値を使用

【補助2】面積について
デフォルト値を使用

⑭ 経皮吸収率	希釈倍数（倍）	経皮吸収率（%）
製剤	1	6.3
希釈液	4	6.3
	150	8.6
	500	11

使用 番号	⑦作物名	使用方法等 (投下量／使用時期／使用方法／評価に用いた使用回数)	希釈 倍数	散布時の予測式	防護装備あり								備考	
					調製時		散布時			反復	急性	%AOEL 1)		%AAOEL 2)
					マスク	手袋	防護服	マスク	手袋	(μg ai/kg 体重/日)	(μg ai/kg 体重)			
1	稲	500 倍, 200 L/10a／収穫14日前まで／散布／ 2 回	500	液剤_水稻（手散布）		不浸透性手袋				1.9	12.7	38.8	57.6	
1*	稲	500 倍, 200 L/10a／収穫14日前まで／散布／ 2 回	500	液剤_水稻（機械散布）		不浸透性手袋				0.9	5.8	17.7	26.2	
2	稲	150 倍, 25 L/10a／収穫14日前まで／散布／ 2 回	150	液剤_水稻（手散布）						2.5	16.4	50.4	74.7	
2*	稲	150 倍, 25 L/10a／収穫14日前まで／散布／ 2 回	150	液剤_水稻（機械散布）						2.2	14.2	43.5	64.5	
3	稲	4 倍, 0.8 L/10a／収穫14日前まで／無人ヘリコプターによる散布／ 2 回	4	液剤_無人航空機 (-)						2.5	16.4	50.2	74.3	

¹⁾: AOEL占有率＝反復暴露量(μg ai/kg体重/日)÷1000(μg/mg)÷AOEL(mg/kg体重/日)×100

²⁾: AAOEL占有率＝急性暴露量(μg ai/kg体重)÷1000(μg/mg)÷AAOEL(mg/kg体重)×100

なお、体重当たり暴露量の計算には国民の平均体重55.1 kgを用いている。

1 4. 登録番号23906：トライKフロアブル、登録番号23907：トライトラムフロアブル（エチプロール5.0%・テブフロキン15.0%水和剤）

① 製剤情報	登録番号	23906
	種類・名称	エチプロール・テブフロキン水和剤(トライKフロアブル)
② 評価対象有効成分		エチプロール
③-1 AOEL		0.005 (mg/kg体重/日)
③-2 AAOEL		0.022 (mg/kg体重)
④ 有効成分濃度・含有率		5 %
⑤ 製剤の形態(製剤/散布液)		製剤: 液体/散布時: 液体
⑥ 調製時の予測式		フロアブル剤等

【補助1】農業使用者暴露量の試験成績について
デフォルト値を使用

【補助2】面積について
デフォルト値を使用

⑭ 経皮吸収率	希釈倍数（倍）	経皮吸収率（%）
製剤	1	10
希釈液	8	50
	250	50
	1000	50

使用 番号	⑦作物名	使用方法等 (投下量／使用時期／使用方法／評価に用いた使用回数)	希釈 倍数	散布時の予測式	防護装備あり								備考	
					調製時		散布時			反復	急性	%AOEL 1)		%AAOEL 2)
					マスク	手袋	防護服	マスク	手袋	(μg ai/kg 体重/日)	(μg ai/kg 体重)			
1	稲	1000 倍, 150 L/10a／収穫14日前まで／散布／2 回	1000	液剤_水稻（手散布）		不浸透性手袋	長ズボン・ 長袖の作業 衣			3.2	20.9	64.1	95.1	
1*	稲	1000 倍, 150 L/10a／収穫14日前まで／散布／2 回	1000	液剤_水稻（機械散布）		不浸透性手袋	長ズボン・ 長袖の作業 衣			0.9	5.6	17.2	25.5	
2	稲	250 倍, 25 L/10a／収穫14日前まで／散布／2 回	250	液剤_水稻（手散布）		不浸透性手袋	長ズボン・ 長袖の作業 衣			2.1	13.9	42.8	63.4	
2*	稲	250 倍, 25 L/10a／収穫14日前まで／散布／2 回	250	液剤_水稻（機械散布）		不浸透性手袋	長ズボン・ 長袖の作業 衣			0.6	3.7	11.5	17	
3	稲	8 倍, 0.8 L/10a／収穫14日前まで／無人航空機による散布／2 回	8	液剤_無人航空機 (-)		不浸透性手袋	長ズボン・ 長袖の作業 衣			0.5	3.1	9.6	14.3	

¹⁾: AOEL占有率=反復暴露量($\mu\text{g ai/kg}$ 体重/日) $\div$ 1000($\mu\text{g/mg}$) $\div$ AOEL(mg/kg 体重/日) $\times$ 100

²⁾: AAOEL占有率=急性暴露量($\mu\text{g ai/kg}$ 体重) $\div$ 1000($\mu\text{g/mg}$) $\div$ AAOEL(mg/kg 体重) $\times$ 100

なお、体重当たり暴露量の計算には国民の平均体重55.1 kgを用いている。

1 5. 登録番号24521：ホクコーラブサイドK 2フロアブル（エチプロール8.8%・フサライド17.5%水和剤）

① 製剤情報	登録番号	24521
	種類・名称	エチプロール・フサライド水和剤(ホクコーラブサイドK2フロアブル)
② 評価対象有効成分	エチプロール	
③-1 AOEL	0.005 (mg/kg体重/日)	
③-2 AAOEL	0.022 (mg/kg体重)	
④ 有効成分濃度・含有率	8.8 %	
⑤ 製剤の形態(製剤/散布液)	製剤: 液体／散布時: 液体	
⑥ 調製時の予測式	乳剤等	

【補助1】農薬使用者暴露量の試験成績について
デフォルト値を使用

【補助2】面積について
デフォルト値を使用

⑭ 経皮吸収率	希釈倍数（倍）	経皮吸収率（％）
製剤	1	6.3
希釈液	8	6.3
	30	6.3
	300	8.6
	1000	8.9

使用 番号	⑦作物名	使用方法等 (投下量／使用時期／使用方法／評価に用いた使用回数)	希釈 倍数	散布時の予測式	防護装備あり								備考	
					調製時		散布時			反復	急性	%AOEL 1)		%AAOEL 2)
					マスク	手袋	防護服	マスク	手袋	(μg ai/kg 体重/日)	(μg ai/kg 体重)			
1	稲	1000 倍, 150 L/10a／収穫14日前まで／散布／2回	1000	液剤_水稲（手散布）		不浸透性手袋				2.2	14.4	44	65.2	
1*	稲	1000 倍, 150 L/10a／収穫14日前まで／散布／2回	1000	液剤_水稲（機械散布）		不浸透性手袋				1.1	7	21.4	31.7	
2	稲	300 倍, 25 L/10a／収穫14日前まで／散布／2回	300	液剤_水稲（手散布）		不浸透性手袋				1.2	7.8	23.9	35.4	
2*	稲	300 倍, 25 L/10a／収穫14日前まで／散布／2回	300	液剤_水稲（機械散布）		不浸透性手袋				0.6	3.8	11.7	17.4	
3	稲	8 倍, 0.8 L/10a／収穫14日前まで／無人航空機による散布／2回	8	液剤_無人航空機 (-)		不浸透性手袋				0.5	3.4	10.5	15.6	
4	稲	8 倍, 0.8 L/10a／収穫14日前まで／空中散布／2回	8	散布による暴露なし（手散布）		不浸透性手袋				0.4	2.8	8.7	12.8	
5	稲	30 倍, 3 L/10a／収穫14日前まで／空中散布／2回	30	散布による暴露なし（手散布）		不浸透性手袋				0.4	2.8	8.7	12.8	

¹⁾: AOEL占有率＝反復暴露量($\mu\text{g ai/kg}$ 体重/日)÷1000($\mu\text{g/mg}$)÷AOEL(mg/kg体重/日)×100

²⁾: AAOEL占有率＝急性暴露量($\mu\text{g ai/kg}$ 体重)÷1000($\mu\text{g/mg}$)÷AAOEL(mg/kg体重)×100

なお、体重当たり暴露量の計算には国民の平均体重55.1 kgを用いている。

16. 登録番号：アミスタッドフロアブル及びジェイサクセスフロアブル（エチプロール10.0%水和剤）

① 製剤情報	登録番号	-
	種類・名称	エチプロール水和剤（ハタガシラフロアブル）
② 評価対象有効成分	エチプロール	
③-1 AOEL	0.005 (mg/kg体重/日)	
③-2 AAOEL	0.022 (mg/kg体重)	
④ 有効成分濃度・含有率	10 %	
⑤ 製剤の形態（製剤/散布液）	製剤: 液体／散布時: 液体	
⑥ 調製時の予測式	乳剤等	

【補助1】農薬使用者暴露量の試験成績について
デフォルト値を使用

【補助2】面積について
デフォルト値を使用

⑭ 経皮吸収率	希釈倍数（倍）	経皮吸収率（％）
製剤	1	0.07
希釈液	100	0.53
	500	0.53
	1000	0.53
	2000	1

使用 番号	⑦作物名	使用方法等 (投下量／使用時期／使用方法／評価に用いた使用回数)	希釈 倍数	散布時の予測式	防護装備あり								備考	
					調製時		散布時			反復	急性	%AOEL 1)		%AAOEL 2)
					マスク	手袋	防護服	マスク	手袋	(μg ai/kg 体重/日)	(μg ai/kg 体重)			
1	稲（箱育苗）	100 倍, 0.5 L/箱／移植3日前～移植当日／灌注／2 回	100	液剤_水稻_育苗箱 (育苗箱)						0.2	0.3	3.5	1.4	
2	稲	500 倍, 25 L/10a／収穫14日前まで／散布／2 回	500	液剤_水稻（手散 布）						0.1	0.4	1.3	2	
2*	稲	500 倍, 25 L/10a／収穫14日前まで／散布／2 回	500	液剤_水稻（機械散 布）						0	0.3	0.9	1.3	
3	稲	2000 倍, 200 L/10a／収穫14日前まで／散布／2 回	2000	液剤_水稻（手散 布）						0.2	1.3	3.9	5.8	
3*	稲	2000 倍, 200 L/10a／収穫14日前まで／散布／2 回	2000	液剤_水稻（機械散 布）						0.1	0.7	2.1	3.1	
4	稲	1000 倍, 200 L/10a／収穫14日前まで／散布／2 回	1000	液剤_水稻（手散 布）						0.3	1.8	5.4	8	
4*	稲	1000 倍, 200 L/10a／収穫14日前まで／散布／2 回	1000	液剤_水稻（機械散 布）						0.2	1.1	3.5	5.2	
5	だいず	2000 倍, 300 L/10a／収穫7日前まで／散布／2 回	2000	液剤_野菜（平面） （手散布）						0.4	1.8	8.8	8.2	
5*	だいず	2000 倍, 300 L/10a／収穫7日前まで／散布／2 回	2000	液剤_野菜（平面） （機械散布）						0.2	0.5	4.9	2.3	

6	えだまめ	2000 倍, 300 L/10a／収穫7日前まで／散布／2 回	2000	液剤_野菜（平面） （手散布）						0.1	1.8	2.2	8.2	
6*	えだまめ	2000 倍, 300 L/10a／収穫7日前まで／散布／2 回	2000	液剤_野菜（平面） （機械散布）						0.1	0.5	2.2	2.3	
7	かんきつ	1000 倍, 700 L/10a／収穫21日前まで／散布／2 回	1000	液剤_果樹（立体） （手散布）			長ズボン・ 長袖の作業 衣			0.9	9	18.1	41.1	
7*	かんきつ	1000 倍, 700 L/10a／収穫21日前まで／散布／2 回	1000	液剤_果樹（立体） （機械散布）						1.2	9	23.9	40.8	
8	かんきつ	2000 倍, 700 L/10a／収穫21日前まで／散布／2 回	2000	液剤_果樹（立体） （手散布）						2	20.4	40.8	92.8	
8*	かんきつ	2000 倍, 700 L/10a／収穫21日前まで／散布／2 回	2000	液剤_果樹（立体） （機械散布）						1	7.8	20.9	35.6	
9	りんご	1000 倍, 700 L/10a／収穫14日前まで／散布／2 回	1000	液剤_果樹（立体） （手散布）			長ズボン・ 長袖の作業 衣			1.2	9	23.6	41.1	
9*	りんご	1000 倍, 700 L/10a／収穫14日前まで／散布／2 回	1000	液剤_果樹（立体） （機械散布）						1.4	9	27.5	40.8	
10	りんご	2000 倍, 700 L/10a／収穫14日前まで／散布／2 回	2000	液剤_果樹（立体） （手散布）						2.7	20.4	53.4	92.8	
10*	りんご	2000 倍, 700 L/10a／収穫14日前まで／散布／2 回	2000	液剤_果樹（立体） （機械散布）						1.2	7.8	24	35.6	
11	かき	2000 倍, 700 L/10a／収穫7日前まで／散布／2 回	2000	液剤_果樹（立体） （手散布）						0.7	20.4	14.2	92.8	
11*	かき	2000 倍, 700 L/10a／収穫7日前まで／散布／2 回	2000	液剤_果樹（立体） （機械散布）						0.4	7.8	7.5	35.6	
12	茶	2000 倍, 400 L/10a／摘採7日前まで／散布／1 回	2000	液剤_野菜（平面） （手散布）						0.1	2.4	2.1	10.9	
12*	茶	2000 倍, 400 L/10a／摘採7日前まで／散布／1 回	2000	液剤_野菜（平面） （機械散布）						0	0.7	0.9	3.1	
13	ねぎ	1000 倍, 300 L/10a／収穫3日前まで／散布／3 回	1000	液剤_野菜（平面） （手散布）						0	2.4	0.9	10.7	

13*	ねぎ	1000 倍, 300 L/10a／収穫3日前まで／散布／3 回	1000	液剤_野菜（平面） （機械散布）						0.1	0.9	1.4	3.9	
-----	----	----------------------------------	------	---------------------	--	--	--	--	--	-----	-----	-----	-----	--

¹⁾: AOEL占有率＝反復暴露量(μg ai/kg体重/日)÷1000(μg/mg)÷AOEL(mg/kg体重/日)×100

²⁾: AAOEL占有率＝急性暴露量(μg ai/kg体重)÷1000(μg/mg)÷AAOEL(mg/kg体重)×100

なお、体重当たり暴露量の計算には国民の平均体重55.1 kgを用いている。

17. 登録番号：アミスタッドDL粉剤及びジェイサクセスDL粉剤（エチプロール0.50%粉剤）

① 製剤情報	登録番号	-
	種類・名称	エチプロール粉剤 (ハタガシラDL粉剤)
② 評価対象有効成分		エチプロール
③-1 AOEL		0.005 (mg/kg体重/日)
③-2 AAOEL		0.022 (mg/kg体重)
④ 有効成分濃度・含有率		0.5 %
⑤ 製剤の形態 (製剤/散布液)		製剤: 固体／散布時: 固体
⑥ 調製時の予測式		固形剤（粉剤、微粒剤、粒剤等）

【補助1】農薬使用者暴露量の試験成績について
デフォルト値を使用

【補助2】面積について
デフォルト値を使用

⑭ 経皮吸収率	希釈倍数（倍）	経皮吸収率（%）
製剤	1	0.53
希釈液		

使用 番号	⑦作物名	使用方法等 (投下量／使用時期／使用方法／評価に用いた使用回数)	希釈 倍数	散布時の予測式	防護装備あり								備考	
					調製時		散布時			反復	急性	%AOEL 1)		%AAOEL 2)
					マスク	手袋	防護服	マスク	手袋	($\mu\text{g ai/kg}$ 体重/日)	($\mu\text{g ai/kg}$ 体重)			
1	稲	4 kg/10a／収穫14日前まで／散布／2回	1	固形剤（粉剤） 水稲（手散布）						1.6	10.7	32.7	48.5	

¹⁾: AOEL占有率＝反復暴露量($\mu\text{g ai/kg}$ 体重/日)÷1000($\mu\text{g/mg}$)÷AOEL(mg/kg体重/日)×100

²⁾: AAOEL占有率＝急性暴露量($\mu\text{g ai/kg}$ 体重)÷1000($\mu\text{g/mg}$)÷AAOEL(mg/kg体重)×100

なお、体重当たり暴露量の計算には国民の平均体重55.1 kgを用いている。

18. 登録番号：アミスタッド粒剤及びジェイサクセス粒剤（エチプロール2.0%粒剤）

① 製剤情報	登録番号	-
	種類・名称	エチプロール粒剤 (ハタガシラ粒剤)
② 評価対象有効成分		エチプロール
③-1 AOEL		0.005 (mg/kg体重/日)
③-2 AAOEL		0.022 (mg/kg体重)
④ 有効成分濃度・含有率		2 %
⑤ 製剤の形態 (製剤/散布液)		製剤: 固体／散布時: 固体
⑥ 調製時の予測式		固形剤 (粉剤、微粒剤、粒剤等)

【補助1】農薬使用者暴露量の試験成績について
デフォルト値を使用

【補助2】面積について
デフォルト値を使用

⑭ 経皮吸収率	希釈倍数 (倍)	経皮吸収率 (%)
製剤	1	0.53
希釈液		

使用 番号	⑦作物名	使用方法等 (投下量／使用時期／使用方法／評価に用いた使用回数)	希釈 倍数	散布時の予測式	防護装備あり								備考	
					調製時		散布時			反復	急性	%AOEL 1)		%AAOEL 2)
					マスク	手袋	防護服	マスク	手袋	($\mu\text{g ai/kg}$ 体重/日)	($\mu\text{g ai/kg}$ 体重)			
1	稲	3 kg/10a／収穫14日前まで／湛水散布／2回	1	固形剤（粒剤） _水 稲（手散布）						0.6	4.1	12.5	18.6	
2	ねぎ	6 kg/10a／植付時／植溝処理土壌混和／3回	1	固形剤（粒剤） _畑 作物（手散布）						0.4	1.4	7.6	6.5	

¹⁾: AOEL占有率=反復暴露量($\mu\text{g ai/kg}$ 体重/日) $\div$ 1000($\mu\text{g/mg}$) $\div$ AOEL(mg/kg 体重/日) $\times$ 100

²⁾: AAOEL占有率=急性暴露量($\mu\text{g ai/kg}$ 体重) $\div$ 1000($\mu\text{g/mg}$) $\div$ AAOEL(mg/kg 体重) $\times$ 100

なお、体重当たり暴露量の計算には国民の平均体重55.1 kgを用いている。